

対象学科		俳優・ミュージカル科		科目名		演技					
担当教員		矢頭 勲			実務授業の有無		○				
対象コース		全コース		対象学年		1		開講時期		前期・後期	
必修・選択		必修		単位数		一		単位時間数		32時間	
授業概要、目的、 授業の進め方		1. 舞台演技基礎の習得 2. 基礎的な演技メソッドの理解 3. 台詞表現と体表現への取り組み									
学習目標 (到達目標)		台本を読み、場においての動きや伝えたいことの意味、登場人物の役割を理解できること									
テキスト・教材・参 考図書・その他資料		練習用台本を必要に応じてコピーし配布									
回数	授業項目、内容					学習方法・準備学習・備考					
1	舞台演劇基礎 1 立ち姿勢					トレーニングの重要性和素立ち 発声の仕方					
2	舞台演劇基礎 2 反応と表現					目線や仕草に対して無意識下での反応について 呼吸法に対する意識					
3	舞台演劇基礎 3 台詞について					言葉の意味、伝えたい事を意識してみる 気持ちの持ち方・考え方					
4	舞台演劇基礎 4 芝居の空間					場面、設定の理解と人物の行動理解					
5	舞台演劇基礎 5 相手役を考える					自分に向けて話す相手の台詞から自分の役柄を見つける。					
6	舞台演劇基礎 6 会話劇					二人以上のシーンを演じてみる。 お互いの表現について考える。					
7	舞台演劇基礎 7 客席との距離					見せ方の工夫。声量について 距離感や想像力について					
8	舞台演劇基礎 8 ミザンス					立ち位置の取り方について シーンでの見せ方					
9	演技発表 1					一人 5 分程度の演技発表会					
10	演技実習 1 姿勢や発声で必要な体について					基本的なトレーニングのおさらい					
11	演技実習 2 反射と影響					台詞や表情・仕草から相手の意識を感じ取り、それに反応 してみる。					
12	演技実習 3 伝え方の工夫					声や身体両方をしっかりと使ってみる。 擬音…声、台詞…体表現と日常の音を逆転させてみる。					
13	演技実習 4 台詞のキャッチボール					二人一組で、古今東西ゲームをテニス形式（エア）で行っ てみる。					
14	演技実習 5 台本を理解し、物語のテーマを考える					演じる世界を理解し、登場人物だからこそ見える世界を感 じとり、表現してみる。					
15	演技実習 6 集団表現					舞台でのアンサンブルを意識し、適切な立ち位置と複数人 による台詞のタイミングを考えてみる。					
16	演技実習 7 自然な演技					オーバーラップや無反応、集団と個人など、打ち合わせの 無い状態での集団表現					
評価方法・成績評価基準							履修上の注意				
定期試験40%、レポート25%、実技試験25%、学習意欲10% 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以上)・D評価を不可とする。							様々な台本を使い、時間ごとにテーマを探り、表現の世界を色々 な角度で感じ取ってください。決して、授業がすべてでない表現 の世界であるとともに、先人たちが記した表現について理解する ことの大切さも学んでほしいと思います。				
実務経験教員の経歴		舞台演劇活動歴30年以上、 舞台演出・舞台監督・演技指導歴15年									

対象学科		俳優・ミュージカル科		科目名		演技					
担当教員		矢頭 勲			実務授業の有無		○				
対象コース		全コース		対象学年		2		開講時期		前期・後期	
必修・選択		必修		単位数		一		単位時間数		32時間	
授業概要、目的、 授業の進め方		1. 舞台俳優に必要な身体を身に付ける 2. 演技メソッドの理解と実践 3. リアリズム演劇を理解する									
学習目標 (到達目標)		現実的な表現と非現実的な表現について理解できる。また、演出家が求める演技について考え、対応し順応できる。									
テキスト・教材・参 考図書・その他資料		練習用台本を必要に応じてコピーし配布									
回数	授業項目、内容					学習方法・準備学習・備考					
1	俳優演技の基礎 1 体の使い方					トレーニングの重要性の確認 発声・滑舌などの訓練について					
2	俳優演技の基礎 2 表情を鍛える					日常的な場面でも、表情は動いています。台詞理解とともに、目線や仕草も無意識に反応しています。					
3	俳優演技の基礎 3 呼吸法に対する意識					気持ちの持ち方で行動に差が出ます。ため息や笑い方など、いろいろな呼吸の仕方があります。					
4	俳優演技の基礎 4 シチュエーション					場面設定の理解と人物像から行動やセリフの言い方を試してみる。					
5	俳優演技の基礎 5 感情表現について					感情の出し方より先に、感情の生まれ方を考える。自分に向けて話す相手の台詞から自分が反応していることを理解する。					
6	俳優演技の基礎 6 喜怒哀楽と老若男女					感情表現に年齢設定や性別、擬人化などを加えてみる。					
7	俳優演技の基礎 7 アンサンブル稽古					集団による歌のシーンやダンスシーンについて					
8	俳優演技の基礎 8 コロス					集団演技について					
9	演技発表 1					コロスもしくは、複数人による演技 5分程度の演技発表会					
10	演技実習 1 姿勢や発声で必要な体について					基本的なトレーニングのおさらい					
11	演技実習 2 反射と影響					台詞や表情・仕草から相手の意識を感じ取り、それに反応してみる。					
12	演技実習 3 インプロ 1					反射や影響から心に生じる変化を自然体として受け止め、行動へと進めてみる。					
13	演技実習 4 インプロ 2					シチュエーションだけを与え、個人の記憶から発想される行動や変化を楽しみながら表現してみる					
14	演技実習 5 エチュード 1					場所や場面、人物の性格だけを決め、役者のみでストーリーをその場で繋いでみる。					
15	演技実習 6 エチュード 2					前回、行ったエチュードと同じシチュエーションで行ってみる。新しい発見や表現を感じてみよう。					
16	演技実習 7 エチュード 3					エチュードから生まれたシーンを台本化してみる。					
評価方法・成績評価基準							履修上の注意				
定期試験40%、レポート25%、実技試験25%、学習意欲10% 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以上)・D評価を不可とする。							様々な台本を使い、時間ごとにテーマを探り、表現の世界を色々な角度で感じ取ってください。決して、授業がすべてでない表現の世界であるとともに、先人たちが記した表現について理解することの大切さも学んでほしいと思います。				
実務経験教員の経歴		芸能活動15年以上、専門学校にて演技指導歴6年									

対象学科		俳優・ミュージカル科		科目名	演技トレーニング		
担当教員		矢頭 勲			実務授業の有無	○	
対象コース		全コース		対象学年	1	開講時期	前期・後期
必修・選択		必修		単位数		単位時間数	16時間
授業概要、目的、 授業の進め方		1. 演技者のための基本トレーニング法 2. 演技をするための発声・身体感覚の習得 3. 身体のケア・自己管理能力の習得					
学習目標 (到達目標)		自分の身体に興味を持ち、客観的に見つめながら開発できる。また、自身でケアを行いながら積極的に表現にかかわっていくことができる。					
テキスト・教材・参考 図書・その他資料		特になし。					
回数	授業項目、内容				学習方法・準備学習・備考		
1	身体トレーニング 1				イントロダクション・トレーニングの重要性		
2	身体トレーニング 2				ストレッチ・リズム運動		
3	身体トレーニング 3				ストレッチ・リズム運動・呼吸法		
4	身体トレーニング 4				ストレッチ・リズム運動・呼吸法・筋力トレーニング		
5	身体トレーニング 5				ストレッチ・リズム運動・呼吸法・筋力トレーニング・発声・リセット		
6	身体トレーニング 6				ストレッチ・リズム運動・呼吸法・筋力トレーニング・発声・リセット		
7	身体トレーニング 7				ストレッチ・リズム運動・呼吸法・筋力トレーニング・発声・リセット		
8	身体トレーニング 8				ストレッチ・リズム運動・呼吸法・筋力トレーニング・発声・リセット		
9	身体トレーニング 9				ストレッチ・リズム運動・呼吸法・筋力トレーニング・発声・リセット		
10	演技トレーニング 1				ストレッチ・リズム運動・呼吸法・筋力トレーニング・発声・演技を伴う発声トレーニング・リセット		
11	演技トレーニング 2				ストレッチ・リズム運動・呼吸法・筋力トレーニング・発声・演技を伴う発声トレーニング・リセット		
12	演技トレーニング 3				ストレッチ・リズム運動・呼吸法・筋力トレーニング・発声・演技を伴う発声トレーニング・リセット		
13	演技トレーニング 4				ストレッチ・リズム運動・呼吸法・筋力トレーニング・発声・演技を伴う発声トレーニング・リセット		
14	演技トレーニング 5				ストレッチ・リズム運動・呼吸法・筋力トレーニング・発声・演技を伴う発声トレーニング・リセット		
15	演技トレーニング 6				ストレッチ・リズム運動・呼吸法・筋力トレーニング・発声・演技を伴う発声トレーニング・リセット		
16	演技トレーニング 7				ストレッチ・リズム運動・呼吸法・筋力トレーニング・発声・演技を伴う発声トレーニング・リセット		
評価方法・成績評価基準					履修上の注意		
定期試験40%、レポート25%、実技試験25%、学習意欲10% 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)・D評価を不可とする。					出席は大前提。積極性、参加意欲を重視します。 表現者としてやっていく上での体づくり、声づくりの素地を形成するつもりで臨んでほしい。日常のコンディショニングと常時最低限のパフォーマンスを発揮できる自己管理能力を維持する意思を自覚すること。		
実務経験教員の経歴		舞台演劇活動歴30年以上、 舞台演出・舞台監督・演技指導歴15年					

対象学科		俳優・ミュージカル科	科目名	演技トレーニング	
担当教員		矢頭 勲		実務授業の有無	
対象コース		全コース	対象学年	2	開講時期 前期・後期
必修・選択		必修	単位数		単位時間数 16時間
授業概要、目的、 授業の進め方		1. 役者の仕事を理解し、演技することができる 2. 戯曲を読解し、演技につなぐことができる 3. 役へのアプローチを多角的にできる			
学習目標 (到達目標)		役者とは、演技とは何かを常に追求する頭を獲得し、戯曲やシナリオを役者の観点から読解することができるようになる。多角的な役へのアプローチを実践し、現場で必要とされる演技力を獲得する。			
テキスト・教材・参 考図書・その他資料		その場に応じて教材・テキストを用意。			
回数	授業項目、内容			学習方法・準備学習・備考	
1	役者とは・演技とは			役者とは何か、演技とは何かを考察する。演技者の為のイントロダクション	
2	セリフと間			セリフと間を実際に演じてみるエクササイズ	
3	演技で空気をつくる			演技で空気をつくるエクササイズ	
4	戯曲の読み方			役者としての戯曲の読み方・分析	
5	セリフ演技について			セリフ演技についての説明・実践	
6	戯曲への演技アプローチ 1			戯曲の解釈から演技に繋げる実習	
7	戯曲への演技アプローチ 2			戯曲の解釈から演技に繋げる実習	
8	戯曲への演技アプローチ 3			戯曲の解釈から演技に繋げる実習	
9	テスト発表				
10	ドラマのための即興演技 1			1人での即興トレーニング	
11	ドラマのための即興演技 2			2人組での即興トレーニング	
12	ドラマのための即興演技 3			グループでの即興トレーニング	
13	ドラマのための即興演技 4			戯曲を使った即興トレーニング	
14	ドラマのための即興演技 5			戯曲を使った即興トレーニング	
15	ドラマのための即興演技 6			戯曲を使った即興トレーニング	
16	ドラマのための即興演技 7			戯曲を使った即興トレーニング	
評価方法・成績評価基準				履修上の注意	
定期試験40%、レポート25%、実技試験25%、学習意欲10% 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以上)・D評価を不可とする。				出席は大前提。積極性、参加意欲を重視します。 役者としての自分と真摯に向き合う姿勢と、演劇に対する好奇心、演技力向上に対するモチベーションを保つこと。	
実務経験教員の経歴		舞台演劇活動歴30年以上、 舞台演出・舞台監督・演技指導歴15年			

対象学科		俳優・ミュージカル科		科目名		滑舌					
担当教員		西潟 明美			実務授業の有無		○				
対象コース		全コース		対象学年		1		開講時期		前期・後期	
必修・選択		必修		単位数		一		単位時間数		16時間	
授業概要、目的、 授業の進め方		1. 正しい呼吸法・発声法を身につける。 2. クリアな発音・滑舌を身につける。 3. 無声化・鼻濁音・舌の使い方などを確認し、身につける。									
学習目標 (到達目標)		1. 声優・俳優としての発声を身につける。2. 声優・俳優として必要な滑舌を身につける。3. 無声化・鼻濁音・舌の使い方などを確認し、美しい日本語を話せる力をつける。									
テキスト・教材・参 考図書・その他資料		NHK放送文化研究所編 NHK日本語発音アクセント辞典 講談社 「魅せる声」のつくり方									
回数	授業項目、内容					学習方法・準備学習・備考					
1	日本語アクセント辞典 滑舌・アクセントについて説明					日本語発音アクセント辞典の使い方確認					
2	腹式呼吸 声帯ストレッチ					実習					
3	腹式呼吸 声帯ストレッチ 母音の無声化					実習					
4	腹式呼吸 声帯ストレッチ 母音の無声化					実習					
5	腹式呼吸 声帯ストレッチ 鼻濁音					実習					
6	腹式呼吸 声帯ストレッチ 鼻濁音					実習					
7	腹式呼吸 声帯ストレッチ 外郎売					実習。外郎売のアクセント、読み方確認。					
8	腹式呼吸 声帯ストレッチ 外郎売					実習。外郎売練習。復習必須。					
9	テスト					実技テスト					
10	発声 外郎売					実習。外郎売チェック。					
11	発声 滑舌課題文練習					実習。滑舌課題文を練習。復習箇所もチェック。					
12	発声 滑舌課題文練習					実習。滑舌課題文を練習。復習箇所もチェック。					
13	発声 滑舌課題文練習					実習。滑舌課題文を練習。復習箇所もチェック。					
14	発声 滑舌課題文練習					実習。滑舌課題文を練習。復習箇所もチェック。					
15	発声 滑舌課題文練習					実習。滑舌課題文を練習。復習箇所もチェック。					
16	発声 滑舌課題文練習					実習。滑舌課題文を練習。復習箇所もチェック。					
評価方法・成績評価基準							履修上の注意				
試験(発表)40%、基礎力30%、学習意欲30% 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)・D評価を不可とする。							声優・俳優の基礎となる発声・滑舌などの力を身につける。 やり方は教室で指導できるが、継続しなければ意味はない。 そのためにも、特に復習が重要である。				
実務経験教員の経歴		ミュージシャンとして活動しながらヴォーカル講師歴15年									

対象学科		俳優・ミュージカル科		科目名		滑舌					
担当教員		西潟 明美			実務授業の有無		○				
対象コース		全コース		対象学年		2		開講時期		前期・後期	
必修・選択		必修		単位数		一		単位時間数		16時間	
授業概要、目的、 授業の進め方		1. 正しい呼吸法・発声法を身につける。 2. クリアな発音・滑舌を身につける。 3. 無声化・鼻濁音・舌の使い方などを確認し、身につける。									
学習目標 (到達目標)		1. 声優・俳優としての発声を身につける。2. 声優・俳優として必要な滑舌を身につける。3. 無声化・鼻濁音・舌の使い方などを確認し、美しい日本語を話せる力をつける。									
テキスト・教材・参 考図書・その他資料		NHK放送文化研究所編 NHK日本語発音アクセント辞典 講談社 「魅せる声」のつくり方									
回数	授業項目、内容					学習方法・準備学習・備考					
1	発声 滑舌練習					1年次の振り返り。復習練習。					
2	腹式呼吸確認 声帯ストレッチ 滑舌練習					1年次の振り返り。尾高から平板読み練習。					
3	腹式呼吸確認 声帯ストレッチ 滑舌練習					高感度の良い読み方、フラットな読み方の練習。					
4	腹式呼吸確認 声帯ストレッチ 滑舌練習					前回までの復習と再修正。					
5	腹式呼吸確認 声帯ストレッチ 音域					基礎練習。音域を広げる練習。					
6	腹式呼吸確認 声帯ストレッチ 音域					基礎練習。音域を広げる練習。					
7	腹式呼吸確認 声帯ストレッチ 課題文練習					同じ文章で抑揚を変えて練習。ストレートに読む練習。					
8	腹式呼吸確認 声帯ストレッチ 課題文練習					テスト課題練習。					
9	テスト					実技テスト					
10	基礎練習 滑舌練習					やや長めの滑舌文を正しく読む練習。					
11	基礎練習 滑舌練習					やや長めの滑舌文を正しく早く読む練習。					
12	基礎練習 滑舌練習					やや長めの滑舌文を表現を加えて読む練習。					
13	基礎練習 滑舌長文練習					長めの滑舌文をクリアに読む練習。敬語多めの文章。					
14	基礎練習 滑舌長文練習					長めの滑舌文をクリアに読む練習。無声化確認。					
15	基礎練習 滑舌長文練習					長めの滑舌文をクリアに読む練習。プレス調節。					
16	基礎練習 滑舌長文練習					長めの滑舌文をクリアに読む練習。テスト課題練習。					
評価方法・成績評価基準							履修上の注意				
試験(発表)40%、基礎力30%、学習意欲30% 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以上)・D評価を不可とする。							声優・俳優の基礎となる発声・滑舌などの力を身につける。 やり方は教室で指導できるが、継続しなければ意味はない。 そのためにも、特に復習が重要である。				
実務経験教員の経歴		ミュージシャンとして活動しながらヴォーカル講師歴15年									

対象学科	俳優・ミュージカル科	科目名	ヴォーカル技法			対象学科	俳優・ミュージカル科	科目名	ヴォーカル技法			
担当教員	西潟 明美		実務授業の有無	○		担当教員	西潟 明美		実務授業の有無	○		
対象コース	俳優コース タレントコース 2.5次元・ミュージカルコース YouTuberコース	対象学年	1	開講時期	前期・後期	対象コース	俳優コース タレントコース 2.5次元・ミュージカルコース YouTuberコース	対象学年	2	開講時期	前期・後期	
必修・選択	必修	単位数	一	単位時間数	32時間	必修・選択	必修	単位数	一	単位時間数	32時間	
授業概要、目的、 授業の進め方	1. 基本の発声法 2. リズム感、音程の安定 3. 洋楽の発音、発声法					授業概要、目的、 授業の進め方	1. 基本発声の定着 2. 音域の拡大 3. リズム感、音程、ハモリの耳の強化					
学習目標 (到達目標)	歌う筋肉の強化、音を聞く耳の強化、コーラス					学習目標 (到達目標)	抜力した上で声量上げる、洋楽ゴスペル曲（4声）の完成					
テキスト・教材・参 考図書・その他資料	歌詞などプリント配布					テキスト・教材・参 考図書・その他資料	歌詞などプリント配布					
回数	授業項目、内容			学習方法・準備学習・備考			回数	授業項目、内容			学習方法・準備学習・備考	
1・2	基礎発声（腹式呼吸等）			基本の発声を身に付ける			1・2	基礎発声			リップ、タングロールで抜力させる	
3・4	Mixボイス方法			Mixvo.の響きの確認			3・4	Mixvo.の定着			やわらかい響き作り	
5・6	鼻腔の共鳴			ハミングで鼻腔の響きの確認			5・6	口・鼻・喉の共鳴			それぞれの違いの確認	
7・8	喉の柔軟性			声門の開閉運動			7・8	Middlevo.の強化			閉鎖筋の強化	
9・10	高域の拡大			様々フレーズで発音			9・10	リズムトレーニング＆音程			音程発声にリズムを追加	
11・12	ボイスチェンジ法			胸声区から中声区、頭声区へ変化			11・12	ゴスペル4声パート練習			パートごとの安定	
13・14	リズムトレーニング			ハンドクラップで表現			13・14	ゴスペル4声5曲完成			発表の場を設け、達成感を味わう	
15・16	音程トレーニング			様々インターバル使用し発声			15・16	課題曲練習			ゴスペル歌唱チェック	
17・18	洋楽の発声法			正しい英語発音を身に付ける			17・18	課題曲練習			ゴスペル歌唱チェック	
19・20	コーラスの強化			ハモリの耳をきたえる			19・20	課題曲歌唱Ⅰ			ゴスペル（課題曲 その1）歌唱チェック	
21・22	課題曲歌唱Ⅰ			合唱曲（課題曲 その1）歌唱チェック			21・22	課題曲歌唱Ⅰ			ゴスペル（課題曲 その1）歌唱チェック	
23・24	課題曲歌唱Ⅰ			合唱曲（課題曲 その1）歌唱チェック			23・24	課題曲歌唱Ⅱ			ゴスペル（課題曲 その2）歌唱チェック	
25・26	課題曲歌唱Ⅱ			合唱曲（課題曲 その2）歌唱チェック			25・26	課題曲歌唱Ⅱ			ゴスペル（課題曲 その2）歌唱チェック	
27・28	課題曲歌唱Ⅱ			合唱曲（課題曲 その2）歌唱チェック			27・28	課題曲歌唱Ⅲ			ゴスペル（課題曲 その3）歌唱チェック	
29・30	課題曲歌唱Ⅲ			合唱曲（課題曲 その3）歌唱チェック			29・30	課題曲歌唱Ⅲ			ゴスペル（課題曲 その3）歌唱チェック	
31・32	課題曲歌唱Ⅲ			合唱曲（課題曲 その3）歌唱チェック			31・32	試験用課題曲レッスン			歌唱チェック	
評価方法・成績評価基準				履修上の注意				評価方法・成績評価基準				履修上の注意
試験50%、課題曲歌唱評価30%、学習意欲20%				積極的に自主トレーニングを行うこと。 試験用課題曲は事前に歌詞を配布します。歌詞は試験までに覚えて下さい。				試験50%、課題曲歌唱評価30%、学習意欲20%				積極的に自主トレーニングを行うこと。 試験用課題曲は事前に歌詞を配布します。歌詞は試験までに覚えて下さい。
成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以上)・D評価を不可とする。								成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以上)・D評価を不可とする。				
実務経験教員の経歴	ミュージシャンとして活動しながらヴォーカル講師歴15年					実務経験教員の経歴	ミュージシャンとして活動しながらヴォーカル講師歴15年					

対象学科		俳優・ミュージカル科		科目名	朗読		
担当教員		鈴木 則子			実務授業の有無	○	
対象コース		舞台俳優コース タレントコース 2.5次元演劇コース		対象学年	2	開講時期	前期・後期
必修・選択		必修		単位数	一	単位時間数	48時間
授業概要、目的、 授業の進め方		1. 「語る」ための基礎力育成。 2. 「表現する」ためのイメージ力育成。 3. 発表により、伝える力を身につける。					
学習目標 (到達目標)		1. 人（心）に伝わる音量で語ることができる。 2. キャラクターの心情に応じたセリフを表現することができる。 3. 物語やキャラクターの状況や心情に応じた語り表現ができる。					
テキスト・教材・参考 図書・その他資料		講師テキスト					
回数	授業項目、内容				学習方法・準備学習・備考		
1・2・3	童話 1				初見読みチェック。漢字・内容確認。児童に伝わる語りについて学ぶ。		
4・5・6	童話 2				キャラクターの心情について確認。喜怒哀楽を活かした表現を学ぶ。		
7・8・9	童話 3				距離感、間の取り方などの表現を学ぶ。		
10・11・12	童話 4				グループ発表。振り返りチェック。		
13・14・15	民話 1				初見読みチェック。漢字・内容確認。		
16・17・18	民話 2				強弱緩急高低を活かした表現を学ぶ。		
19・20・21	民話 3				切迫した状況などの表現を学ぶ。		
22・23・24	民話 4				グループ発表。振り返りチェック。		
25・26・27	日本文学 1				作家芥川龍之介の短編小説の朗読練習。 初見読みチェック。		
28・29・30	日本文学 2				作家芥川龍之介の短編小説の朗読練習。		
31・32・33	日本文学 3				作家芥川龍之介の短編小説の朗読練習。		
34・35・36	日本文学 4				作家芥川龍之介の短編小説の朗読。 グループ仮発表の撮影。語り癖の確認と修正。		
37・38・39	日本文学 5				作家芥川龍之介の短編小説の朗読。 グループ発表。		
40・41・42	ボイスドラマ 1				初見読みチェック。キャラクターの状況・心情を活かしつつセリフを表現する力を強化。		
43・44・45	ボイスドラマ 2				立ち稽古によりキャラクターの音声表現確認。		
46・47・48	ボイスドラマ 3				動きのある読みを習得。		
評価方法・成績評価基準					履修上の注意		
定期試験(発表)40%、基礎力30%、学習意欲30% 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)・D評価を不可とする。					発声・滑舌などの基礎力を活かしつつ、語る力、表現力を磨く。 聴く人に、声で物語の世界を見せられるようにするには、自身もイメージを高めて表現しなければならない。 そのためにも、特に復習が重要である。		
実務経験教員の経歴		演技者・ナレーターとして10年以上経験を積む					

対象学科		俳優・ミュージカル科		科目名		ダンス					
担当教員		RyoG（五十嵐涼志）			実務授業の有無		○				
対象コース		全コース		対象学年		1		開講時期		前期・後期	
必修・選択		必修		単位数		一		単位時間数		16時間	
授業概要、目的、 授業の進め方		1. 正しい姿勢、舞台上で動ける身体、体力をつける。 2. リズム感を身につける。 3. テーマを持ち、課題曲の振りをマスターする。									
学習目標 (到達目標)		1. 振付られた課題を練習し、踊ることができる。 2. 個々の表現を入れながら、課題曲を踊ることができる。									
テキスト・教材・参 考図書・その他資料		なし									
回数	授業項目、内容					学習方法・準備学習・備考					
1	ストレッチ					基本的なストレッチ。体のパーツを動かし確認。					
2	ストレッチ、アイソレーション、リズムトレーニング					アイソレーション。首・胸・腰・膝・足首と、上から下へと行う。					
3	ストレッチ、アイソレーション、リズムトレーニング、ステップ					アイソレーション。リズムをとりながらステップ。					
4	ストレッチ、アイソレーション、リズムトレーニング、ステップ					ステップ、ボディコントロールできるための練習。					
5	ストレッチ、アイソレーション、リズムトレーニング、振り入れ					ピッチが早すぎない課題曲から練習。基本的動きを確認。					
6	ストレッチ、アイソレーション、リズムトレーニング、振り入れ					リズムキープ、体を大きく使えるような振りを加えた練習。					
7	ストレッチ、アイソレーション、リズムトレーニング、振り入れ					グループ練習。動きの確認。					
8	ストレッチ、アイソレーション、リズムトレーニング、振り入れ					グループ練習。動きの確認。					
9	テスト					グループ発表。					
10	ストレッチ、アイソレーション、リズムトレーニング、ステップ					前期の復習					
11	ストレッチ、アイソレーション、リズムトレーニング、振り入れ					アップテンポの曲(A)の課題。新しい振り付け。					
12	ストレッチ、アイソレーション、リズムトレーニング、振り入れ					アップテンポの曲(A)振付の続き。					
13	ストレッチ、アイソレーション、リズムトレーニング、振り入れ					アップテンポの曲(A)振付の続き。フォーメーション。					
14	ストレッチ、アイソレーション、リズムトレーニング、振り入れ					アップテンポの曲(A)振付の続き。フォーメーション。					
15	ストレッチ、アイソレーション、リズムトレーニング、振り入れ					アップテンポの曲(A)練習。表情、リズム確認。					
16	ストレッチ、アイソレーション、リズムトレーニング、振り入れ					アップテンポの曲(A)練習。表情、リズム確認。					
評価方法・成績評価基準							履修上の注意				
試験(発表)30%、基礎力30%、学習意欲20%、積極性20% 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以上)・D評価を不可とする。							進行状況に合わせながら振付も変えていく。身体的リズム感を養うためには自主練習も必要。発表のタイミングを設け、精度を高めていく予定。				
実務経験教員の経歴		新潟県内を中心に活動するダンスグループメンバー									

対象学科		俳優・ミュージカル科	科目名	ダンス		
担当教員		RyoG（五十嵐涼志）		実務授業の有無	○	
対象コース		全コース	対象学年	2	開講時期	前期・後期
必修・選択		必修	単位数	一	単位時間数	16時間
授業概要、目的、 授業の進め方		1. 正しい姿勢で舞台に映える動きを身につける。 2. アイソレーションが正しくできるようにする。 3. リズムキープに表現力がプラスされたダンスができるようにする。				
学習目標 （到達目標）		1. 舞台で使えるアイソレーションをマスターし、ボディコントロールできるようになる。2. 振り付けられた内容の中で、個々の表現を取り入れながら踊れるようにする。				
テキスト・教材・参 考図書・その他資料		なし				
回数	授業項目、内容			学習方法・準備学習・備考		
1	ストレッチ、アイソレーション、リズムトレーニング			1年次の復習。		
2	ストレッチ、アイソレーション、振り付け			HipHopとJAZZを取り入れたダンス課題。振り付け。		
3	ストレッチ、アイソレーション、振り付け			HipHopとJAZZを取り入れたダンス課題。振り付け。		
4	ストレッチ、アイソレーション、振り付け			HipHopとJAZZを取り入れたダンス課題。振り付け。		
5	ストレッチ、アイソレーション、振り付け			HipHopとJAZZを取り入れたダンス課題。グループでのフォーメーション練習。		
6	ストレッチ、アイソレーション、振り付け			HipHopとJAZZを取り入れたダンス課題。グループでのフォーメーション練習。		
7	ストレッチ、アイソレーション、振り付けチェック			HipHopとJAZZを取り入れたダンス課題。チェック。		
8	ストレッチ、アイソレーション、振り付けチェック			HipHopとJAZZを取り入れたダンス課題。チェック。		
9	課題発表			グループ発表。		
10	ストレッチ、アイソレーション、リズムトレーニング			前期の復習。		
11	ストレッチ、アイソレーション、振り付け			HipHopとJAZZのアップテンポ課題。振り付け。		
12	ストレッチ、アイソレーション、振り付け			HipHopとJAZZのアップテンポ課題。振り付け。		
13	ストレッチ、アイソレーション、振り付け			HipHopとJAZZのアップテンポ課題。グループでのフォーメーション練習。		
14	ストレッチ、アイソレーション、振り付け			HipHopとJAZZのアップテンポ課題。グループでのフォーメーション練習。		
15	ストレッチ、アイソレーション、振り付けチェック			HipHopとJAZZのアップテンポ課題。チェック。		
16	ストレッチ、アイソレーション、振り付けチェック			HipHopとJAZZのアップテンポ課題。チェック。		
評価方法・成績評価基準				履修上の注意		
試験(発表)30%、基礎力30%、学習意欲20%、積極性20% 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以上)・D評価を不可とする。				進行状況に合わせながら振付も変えていく。身体的リズム感を養うためには自主練習も必要。発表のタイミングを設け、精度を高めていく予定。		
実務経験教員の経歴		新潟県内を中心に活動するダンスグループメンバー				

②		国際映像メディア専門学校 シラバス				
対象学科		俳優・ミュージカル科	科目名	漫才・コント		
担当教員		矢頭 勲		実務授業の有無	○	
対象コース		映画・ドラマ俳優コース	対象学年	2	開講時期	前期・後期
必修・選択		必修	単位数	一	時間数	48時間
授業概要、目的、 授業の進め方 +A6:AD26		1. ユーモアの理論と歴史を学ぶ 2. 漫才やコントの創作 3. お笑いLIVEの実施				
学習目標 (到達目標)		笑いについて学ぶとともに、自身の表現に興味を持ち、客観的に見つめながら開発できる。また、笑いがもたらす時代や文化との関係や影響についても理解し、コントや漫才を創作してみる。				
テキスト・教材・参考図書・その他資料		講師テキスト				
回数	授業項目、内容			学習方法・準備学習・備考		
1・2・3	ユーモアの理論と歴史 1			ユーモアの基本的な理論や構造について学ぶ。		
4・5・6	ユーモアの理論と歴史 2			有名なお笑いコメディアンやコントの歴史を学び、影響を受けることができる。		
7・8・9	キャラクター開発 1			個々の学生が自分自身の個性や特徴を生かしたキャラクターを開発する。		
10・11・12	キャラクター開発 2			キャラクターの持つユニークなトレードマークや言動を強調し、笑いを生み出す。		
13・14・15	スクリプトライティング 1			ショートコントやスタンドアップコメディのスクリプトライティングを行う。		
16・17・18	スクリプトライティング 2			シチュエーションの設定やキャラクターの対話を通じて笑いを創出する方法を学ぶ。		
19・20・21	中間発表			中間発表、評価		
22・23・24	お笑いという職業について			ゲストに芸人を招き、体験談を交え、お笑いの世界について理解を深める。		
25・26・27	パフォーマンス技術 1			身体表現や声の使い方など、パフォーマンス技術を磨く。		
28・29・30	パフォーマンス技術 2			パフォーマンスのタイミングやリズム感、身体の使い方による笑いの効果を追求する。		
31・32・33	チームワークと即興演技 1			グループでのコラボレーションや即興演技を通じて、チームワークを養う。		
34・35・36	チームワークと即興演技 2			リアルタイムでのユーモアや笑いの創造に挑戦し、相互作用を重視する。		
37・38・39	漫才・コント制作 1			これまでの授業を基にコントや漫才を創作。相方、グループの決定。		
40・41・42	漫才・コント制作 2			台本と内容の決定。稽古。		
43・44・45	お笑いLIVE			劇場スタイルの中で、創作した漫才・コントの発表		
46・47・48	フィードバック			学生同士や講師からのフィードバックを通じて、パフォーマンスの改善点や新たなアイデアを得る。		
評価方法・成績評価基準				履修上の注意		
定期試験40%、レポート25%、実技試験25%、学習意欲10%				お笑いの授業では、創造性や表現力を伸ばすだけでなく、コミュニケーション力や柔軟な思考力を育むことも重要です。学生たちには自由な発想を促し、笑いを通じて楽しく学ぶ環境を提供することが求められます。また、ゲスト講師や現役のお笑い芸人の講演なども組み込むことで、実践的な知識や経験を得られます。		
成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以上)・D評価を不可とする。						
実務経験教員の経歴	舞台演劇活動歴30年以上、 舞台演出・舞台監督・演技指導歴15年					

対象学科		俳優・ミュージカル科		科目名		ファシリテーション					
担当教員		矢頭 勲			実務授業の有無		×				
対象コース		全コース		対象学年		1		開講時期		前期・後期	
必修・選択		必修		単位数		一		単位時間数		16時間	
授業概要、目的、 授業の進め方		1. 聞く・話すを円滑に行う知識の習得 2. 敬語（丁寧語・謙譲語・尊敬語）を理解する 3. 場に応じた正しい対応力を社会人の仕事の例を使い理解する。									
学習目標 （到達目標）		社会人に向けてのコミュニケーション能力の必要性を理解し、仕事などの場で、人間関係を構築出来る知識を得る。									
テキスト・教材・参 考図書・その他資料		参考書「サーティファイ主催 コミュニケーション能力検定初級」（問題集含む）									
回数	授業項目、内容					学習方法・準備学習・備考					
1	コミュニケーションとは？					P2 コミュニケーションの必要性を考える					
2	聞く力					P6～P9 目的に即して聞く					
3	聞く力					P10～P14 傾聴・質問する					
4	話す力					P15～P17 目的を意識する					
5	話す力					P18～P22 話を組み立てる					
6	話す力					P23～P29 言葉を選び抜く					
7	話す力					P30～P35 表現・伝達する					
8	実践基礎 1					P36～P39 来客応対					
9	実践基礎 2					P40～P43 電話応対					
10	実践基礎 3					P44～P48 アポイントメント・訪問・挨拶					
11	実践基礎 4					P49～P54 情報共有の重要性					
12	実践基礎 5					P55～P59 チーム・コミュニケーション					
13	実践応用 1					P60～P65 接客・営業					
14	実践応用 2					P66～P71 クレーム対応					
15	実践応用 3					P72～P77 会議・取材・ヒヤリング					
16	実践応用 4					P78～P83 面接					
評価方法・成績評価基準							履修上の注意				
定期試験40%、レポート25%、実技試験25%、学習意欲10% 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以上)・D評価を不可とする。							授業では、教科書にない事例も使います。また、特に必要と感じたコミュニケーションの話しも交えながら進めて行くことで、より身近なこととして必要性を感じながら履修してください。				
実務経験教員の経歴		コミュニケーション検定指導歴15年以上									

対象学科		俳優・ミュージカル科		科目名	殺陣・アクション		
担当教員		岩木 秀之			実務授業の有無	○	
対象コース		全コース		対象学年	1	開講時期	前期・後期
必修・選択		必修		単位数	一	単位時間数	16時間
授業概要、目的、 授業の進め方		1. アクションの基本を習得 2. 殺陣（剣を使った立ち回り）の基本を習得 3. 舞台・映像演技の中でパフォーマンスができる					
学習目標 （到達目標）		劇中のアクション・殺陣のシーンの中で必要な体さばきと剣さばきを身につける。鍛錬の中で必要な礼儀・所作・精神力を養う。					
テキスト・教材・参考図書・その他資料		マット・木刀					
回数	授業項目、内容				学習方法・準備学習・備考		
1	マット運動 1				ウォーミングアップ・前転・後転・側転・飛び込み前転・リセット		
2	マット運動 2				ウォーミングアップ・前転・後転・飛び込み前転・前回り受け身・横回り受け身・リセット		
3	マット運動 3				ウォーミングアップ・芝居の中でアクションを合わせる・リセット		
4	技斗基礎 1				ウォーミングアップ・殴り、蹴りの型・リセット		
5	技斗基礎 2				ウォーミングアップ・殴り、蹴りのバージョン・リセット		
6	殺陣基礎 1				ウォーミングアップ・摺り足・抜刀・納刀・基本十手・リセット		
7	殺陣基礎 2				ウォーミングアップ・基本十手・間合い・初級手つけ・リセット		
8	シーンワーク（総合アクション）				ウォーミングアップ・殺陣と技斗をミックスした手つけ・リセット		
9	テスト				テスト		
10	技斗応用 1				ウォーミングアップ・殴り、蹴りの型・リセット		
11	技斗応用 2				ウォーミングアップ・殴り、蹴りのバージョン・リセット		
12	殺陣応用 1				ウォーミングアップ・基本十手・中級手つけ・リセット		
13	殺陣応用 2				ウォーミングアップ・基本十手・中級手つけ・リセット		
14	シーンワーク（総合アクション） 1				ウォーミングアップ・殺陣と技斗をミックスした手つけ・リセット		
15	シーンワーク（総合アクション） 2				ウォーミングアップ・殺陣と技斗をミックスした手つけ・リセット		
16	シーンワーク（総合アクション） 3				ウォーミングアップ・殺陣と技斗をミックスした手つけ・リセット		
評価方法・成績評価基準					履修上の注意		
定期試験40%、レポート25%、実技試験25%、学習意欲10% 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以上)・D評価を不可とする。					出席は大前提。積極性、参加意欲を重視します。 殺陣アクションは演技とはいえ、十分な注意と心構えが重要。立ち居振る舞い・所作・気配り・礼儀作法・集中力・思いやりといった「心の鍛錬」を怠らないことに留意すること。		
実務経験教員の経歴		プロ格闘家 元世界チャンピオン					

対象学科		俳優・ミュージカル科		科目名	殺陣・アクション						
担当教員		岩木 秀之			実務授業の有無		○				
対象コース		全コース		対象学年		2		開講時期	前期・後期		
必修・選択		必修		単位数		一		単位時間数		16時間	
授業概要、目的、授業の進め方		1. アクションの基本を習得 2. 殺陣（剣を使った立ち回り）の基本を習得 3. 舞台・映像演技の中でパフォーマンスができる 4. 授業進行は1年生に準ずるが内容はよりハードになる									
学習目標 （到達目標）		劇中のアクション・殺陣のシーンの中で必要な体さばきと剣さばきを身につける。鍛錬の中で必要な礼儀・所作・精神力を養う。									
テキスト・教材・参考図書・その他資料		マット・木刀									
回数	授業項目、内容				学習方法・準備学習・備考						
1	マット運動 1				ウォーミングアップ・前転・後転・側転・飛び込み前転・リセット						
2	マット運動 2				ウォーミングアップ・前転・後転・飛び込み前転・前回り受け身・横回り受け身・リセット						
3	マット運動 3				ウォーミングアップ・芝居の中でアクションを合わせる・リセット						
4	技斗基礎 1				ウォーミングアップ・殴り、蹴りの型・リセット						
5	技斗基礎 2				ウォーミングアップ・殴り、蹴りのバージョン・リセット						
6	殺陣基礎 1				ウォーミングアップ・摺り足・抜刀・納刀・基本十手・リセット						
7	殺陣基礎 2				ウォーミングアップ・基本十手・間合い・初級手つけ・リセット						
8	シーンワーク（総合アクション）				ウォーミングアップ・殺陣と技斗をミックスした手つけ・リセット						
9	テスト				テスト						
10	技斗応用 1				ウォーミングアップ・殴り、蹴りの型・リセット						
11	技斗応用 2				ウォーミングアップ・殴り、蹴りのバージョン・リセット						
12	殺陣応用 1				ウォーミングアップ・基本十手・中級手つけ・リセット						
13	殺陣応用 2				ウォーミングアップ・基本十手・中級手つけ・リセット						
14	シーンワーク（総合アクション） 1				ウォーミングアップ・殺陣と技斗をミックスした手つけ・リセット						
15	シーンワーク（総合アクション） 2				ウォーミングアップ・殺陣と技斗をミックスした手つけ・リセット						
16	シーンワーク（総合アクション） 3				ウォーミングアップ・殺陣と技斗をミックスした手つけ・リセット						
評価方法・成績評価基準					履修上の注意						
定期試験40%、レポート25%、実技試験25%、学習意欲10%					出席は大前提。積極性、参加意欲を重視します。 殺陣アクションは演技とはいえ、十分な注意と心構えが重要。立ち居振る舞い・所作・気配り・礼儀作法・集中力・思いやりといった「心の鍛錬」を怠らないことに留意すること。						
実務経験教員の経歴		プロ格闘家 元世界チャンピオン									

対象学科		俳優・ミュージカル科		科目名	PC&Webリテラシー			
担当教員		神田 幸司			実務授業の有無		×	
対象コース		舞台俳優コース 映画・ドラマ俳優コース ミュージカルコース タレントコース		対象学年		1	開講時期	前期・後期
必修・選択		必修		単位数		－	単位時間数	32時間
授業概要、目的、 授業の進め方		1. 情報リテラシーに関する知識 2. パソコンに関する基礎知識 3. アプリケーションに関する基礎知識						
学習目標 (到達目標)		P C, S N Sに関する基礎知識 ビジネスソフトを中心に基礎使用方法						
テキスト・教材・参 考図書・その他資料		プリント配布						
回数	授業項目、内容				学習方法・準備学習・備考			
1・2	情報リテラシー				情報を正しく選択し解釈する			
3・4	情報リテラシー				ネット使用の注意点			
5・6	Twitterについて				セルフプロモーション活用法			
7・8	Instagram				セルフプロモーション活用法			
9・10	Youtube				セルフプロモーション活用法			
11・12	ソフト（Word）				文章作成			
13・14	ソフト（Word）				文章作成			
15・16	ソフト（Excel）				表計算			
17・18	ソフト（Excel）				表計算			
19・20	ソフト（PowerPoint）				プレゼンテーション			
21・22	ソフト（PowerPoint）				プレゼンテーション			
23・24	フリーソフト紹介および使用方法①				画像・動画			
25・26	フリーソフト紹介および使用方法②				画像・動画			
27・28	フリーソフト紹介および使用方法③				画像・動画			
29・30	フリーソフト紹介および使用方法④				音楽・サウンド編集			
31・32	フリーソフト紹介および使用方法⑤				音楽・サウンド編集			
評価方法・成績評価基準					履修上の注意			
ソフト使用上達度40%、課題提出50%、学習意欲10% 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以上)・D評価を不可とする。					自身が知っている、使用出来るフリーソフトは授業内で教えて 合って知識・技術を共有しましょう！			
実務経験教員の経歴								

対象学科		俳優・ミュージカル科		科目名	PC&Webリテラシー			
担当教員		神田 幸司			実務授業の有無		×	
対象コース		舞台俳優コース 映画・ドラマ俳優コース ミュージカルコース タレントコース		対象学年		2	開講時期	前期・後期
必修・選択		必修		単位数		一	単位時間数	32時間
授業概要、目的、 授業の進め方		ソフト・アプリケーションを使用した様々な作成実習 1. 画像・動画関係 2. 音楽・音響関係 3. その他（CAD、イラスト・アニメーションなど）						
学習目標 （到達目標）		様々なソフト・アプリケーションを使用したコンテンツ作成が可能な人材育成						
テキスト・教材・参 考図書・その他資料		プリント配布						
回数	授業項目、内容				学習方法・準備学習・備考			
1・2	画像・イラストソフトについて①				illustrator・photoshop			
3・4	画像・イラストソフトについて②				illustrator・photoshop			
5・6	画像・イラストソフトについて③				illustrator・photoshop			
7・8	画像・イラストソフトについて④				illustrator・photoshop			
9・10	動画ソフトについて①				Final Cut Pro			
11・12	動画ソフトについて②				Final Cut Pro			
13・14	動画ソフトについて③				Final Cut Pro			
15・16	動画ソフトについて④				Final Cut Pro			
17・18	レコーディングソフトについて①				Protools			
19・20	レコーディングソフトについて②				Protools			
21・22	レコーディングソフトについて③				Protools			
23・24	レコーディングソフトについて④				Protools			
25・26	アニメーション制作				フリーソフト活用			
27・28	アニメーション制作				フリーソフト活用			
29・30	アニメーション制作				フリーソフト活用			
31・32	アニメーション制作				フリーソフト活用			
評価方法・成績評価基準					履修上の注意			
ソフト使用上達度40%、課題提出50%、学習意欲10% 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以上)・D評価を不可とする。					自身が知っている、使用出来るフリーソフトは授業内で教えて 合って知識・技術を共有しましょう！			
実務経験教員の経歴								

対象学科		俳優・ミュージカル科		科目名		社会人常識マナー検定					
担当教員		鈴木 則子			実務授業の有無		×				
対象コース		全コース		対象学年		1		開講時期		前期・後期	
必修・選択		必修		単位数		一		単位時間数		16時間	
授業概要、目的、 授業の進め方		1. 社会人、組織の一員として必要不可欠な社会常識を理解する。 2. 人として必要な知識やビジネスマナーを修得する。 3. 良好な人間関係を築くためのコミュニケーション能力を修得する。									
学習目標 (到達目標)		1.社会常識を理解する。2.ビジネス計算力を身につける。3.立居振舞い、言葉遣いなどを身につける。4. ビジネスマナーの基礎を理解する。5.社会人常識マナー検定3級合格を目指す。									
テキスト・教材・参 考図書・その他資料		公益社団法人 全国経理教育協会 社会人常識マナー検定テキスト2・3級 公益社団法人 全国経理教育協会 社会人常識マナー検定第21回～第28回過去問題集3級									
回数		授業項目、内容					学習方法・準備学習・備考				
1		社会人常識マナー検定試験について 社会と組織 1					社会人としての自覚やキャリア、会社組織について。テキストP1～20				
2		社会と組織 2					組織と役割、社会変化とその対応。テキストP22～32				
3		仕事と組織					目標の重要性、主体性と組織運営。テキストP34～54				
4		一般常識 1					社会常識の基礎用語。漢字など。テキストP56～70				
5		一般常識 2					社会常識の基礎用語。用語など。テキストP70～86				
6		ビジネスコミュニケーション 言葉遣い					人間関係とコミュニケーション。敬語と話し方。テキストP102～144				
7		ビジネス文書					ビジネス文書の特徴。社内文書。テキストP146～156				
8		ビジネスマナー					組織の一員としてのマナー。来客応対。テキストP176～196				
9		定期試験					テストと解説。				
10		電話対応					電話対応の重要性。電話の受け方、掛け方の心得。テキストP202～214				
11		交際業務					慶事・弔辞のマナー。テキストP128～238				
12		文書類の受け取りと発送					受発信文書の取り扱い。オフィス環境。テキストP242～249				
13		計算					ビジネスにおける計算。数式。テキストP90～99				
14		日本					都道県名・県庁所在地・各県の特色など。				
15		検定対策①					過去問題の解説、確認。				
16		検定対策②					過去問題の解説、確認。				
評価方法・成績評価基準							履修上の注意				
定期試験40%、レポート25%、実技試験25%、学習意欲10% 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)・D評価を不可とする。							社会人として必要なマナーや知識を修得。検定合格は勿論のこと、社会への意識を高めさせたい。				
実務経験教員の経歴		専門学校教員として19年間、学生の育成に従事。									

対象学科		俳優・ミュージカル科		科目名		演習					
担当教員		矢頭 勲			実務授業の有無		○				
対象コース		全コース		対象学年		1		開講時期		前期	
必修・選択		必修		単位数		一		単位時間数		48時間	
授業概要、目的、 授業の進め方		1. 各学科コースで、それぞれの役割（スタッフと演者）を決めて演習を行う 2. 本番さながらの事柄を様々な経験を模擬体験することを目的とする 3. 協調性・積極的・主体性が無ければ成立しない授業である									
学習目標 （到達目標）		様々な経験をすることで、本番に対応出来る人材育成を目標とする									
テキスト・教材・参 考図書・その他資料		台本など必要物はその都度、配布する									
回数	授業項目、内容					学習方法・準備学習・備考					
1・2・3	準備：音響・照明・映像・歌唱・演劇					それぞれの学科コースに分かれて準備を行う					
4・5・6	本番：歌唱ステージ・演劇舞台・映像作品（ドラマなど）					各コース、それぞれに分かれて10分～30分程度の本番を行 う					
7・8・9	準備：音響・照明・映像・歌唱・演劇					それぞれの学科コースに分かれて準備を行う					
10・11・12	本番：歌唱ステージ・演劇舞台・映像作品（ドラマなど）					各コース、それぞれに分かれて10分～30分程度の本番を行 う					
13・14・15	準備：音響・照明・映像・歌唱・演劇					それぞれの学科コースに分かれて準備を行う					
16・17・18	本番：歌唱ステージ・演劇舞台・映像作品（ドラマなど）					各コース、それぞれに分かれて10分～30分程度の本番を行 う					
19・20・21	準備：音響・照明・映像・歌唱・演劇					それぞれの学科コースに分かれて準備を行う					
22・23・24	本番：歌唱ステージ・演劇舞台・映像作品（ドラマなど）					各コース、それぞれに分かれて10分～30分程度の本番を行 う					
25・26・27	準備：音響・照明・映像・歌唱・演劇					それぞれの学科コースに分かれて準備を行う					
28・29・30	本番：歌唱ステージ・演劇舞台・映像作品（ドラマなど）					各コース、それぞれに分かれて10分～30分程度の本番を行 う					
31・32・33	準備：音響・照明・映像・歌唱・演劇					それぞれの学科コースに分かれて準備を行う					
34・35・36	本番：歌唱ステージ・演劇舞台・映像作品（ドラマなど）					各コース、それぞれに分かれて10分～30分程度の本番を行 う					
37・38・39	準備：音響・照明・映像・歌唱・演劇					それぞれの学科コースに分かれて準備を行う					
40・41・42	本番：歌唱ステージ・演劇舞台・映像作品（ドラマなど）					各コース、それぞれに分かれて10分～30分程度の本番を行 う					
43・44・45	準備：音響・照明・映像・歌唱・演劇					それぞれの学科コースに分かれて準備を行う					
46・47・48	本番：歌唱ステージ・演劇舞台・映像作品（ドラマなど）					各コース、それぞれに分かれて10分～30分程度の本番を行 う					
評価方法・成績評価基準							履修上の注意				
主体性・積極性・協調性60%、舞台ステージ・映像作品完成度40% 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以上)・D評価を不可とする。							舞台・ステージ・映像作品など、あらゆることに積極的かつ協調性を持って履修下さい。				
実務経験教員の経歴		舞台演劇活動歴30年以上、 舞台演出・舞台監督・演技指導歴15年									

対象学科		俳優・ミュージカル科		科目名		演習					
担当教員		矢頭 勲			実務授業の有無		○				
対象コース		全コース		対象学年		2		開講時期		前期	
必修・選択		必修		単位数		一		単位時間数		48時間	
授業概要、目的、 授業の進め方		1. 各学科コースで、それぞれの役割（スタッフと演者）を決めて演習を行う 2. 本番さながらの事柄を様々な経験を模擬体験することを目的とする 3. 協調性・積極的・主体性が無ければ成立しない授業である									
学習目標 （到達目標）		様々な経験をすることで、本番に対応出来る人材育成を目標とする									
テキスト・教材・参 考図書・その他資料		台本など必要物はその都度、配布する									
回数	授業項目、内容					学習方法・準備学習・備考					
1・2・3	準備：音響・照明・映像・歌唱・演劇					それぞれの学科コースに分かれて準備を行う					
4・5・6	本番：歌唱ステージ・演劇舞台・映像作品（ドラマなど）					各コース、それぞれに分かれて10分～30分程度の本番を行 う					
7・8・9	準備：音響・照明・映像・歌唱・演劇					それぞれの学科コースに分かれて準備を行う					
10・11・12	本番：歌唱ステージ・演劇舞台・映像作品（ドラマなど）					各コース、それぞれに分かれて10分～30分程度の本番を行 う					
13・14・15	準備：音響・照明・映像・歌唱・演劇					それぞれの学科コースに分かれて準備を行う					
16・17・18	本番：歌唱ステージ・演劇舞台・映像作品（ドラマなど）					各コース、それぞれに分かれて10分～30分程度の本番を行 う					
19・20・21	準備：音響・照明・映像・歌唱・演劇					それぞれの学科コースに分かれて準備を行う					
22・23・24	本番：歌唱ステージ・演劇舞台・映像作品（ドラマなど）					各コース、それぞれに分かれて10分～30分程度の本番を行 う					
25・26・27	準備：音響・照明・映像・歌唱・演劇					それぞれの学科コースに分かれて準備を行う					
28・29・30	本番：歌唱ステージ・演劇舞台・映像作品（ドラマなど）					各コース、それぞれに分かれて10分～30分程度の本番を行 う					
31・32・33	準備：音響・照明・映像・歌唱・演劇					それぞれの学科コースに分かれて準備を行う					
34・35・36	本番：歌唱ステージ・演劇舞台・映像作品（ドラマなど）					各コース、それぞれに分かれて10分～30分程度の本番を行 う					
37・38・39	準備：音響・照明・映像・歌唱・演劇					それぞれの学科コースに分かれて準備を行う					
40・41・42	本番：歌唱ステージ・演劇舞台・映像作品（ドラマなど）					各コース、それぞれに分かれて10分～30分程度の本番を行 う					
43・44・45	準備：音響・照明・映像・歌唱・演劇					それぞれの学科コースに分かれて準備を行う					
46・47・48	本番：歌唱ステージ・演劇舞台・映像作品（ドラマなど）					各コース、それぞれに分かれて10分～30分程度の本番を行 う					
評価方法・成績評価基準							履修上の注意				
主体性・積極性・協調性60%、舞台ステージ完成度40% 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以上)・D評価を不可とする。							舞台・ステージ・映像作品など、あらゆることに積極的かつ協調性を持って履修下さい。				
実務経験教員の経歴		舞台演劇活動歴30年以上、 舞台演出・舞台監督・演技指導歴15年									

②

国際映像メディア専門学校 シラバス

対象学科	俳優・ミュージカル科	科目名	メイク		
担当教員	樋口 奈美		実務授業の有無	○	
対象コース	全コース	対象学年	2	開講時期	前期・後期
必修・選択	必修	単位数	一	単位時間数	32時間
授業概要、目的、 授業の進め方	1. メイク道具の扱い方、種類、名前を覚える 2. 演出に応じたビューティーメイクが出来るようになる。 3. 演出に応じた特殊メイク、舞台メイクが出来るようになる。				
学習目標 (到達目標)	学生自身でメイクが出来、それを活かして作品制作が出来る。				
テキスト・教材・参 考図書・その他資料	教科書は使用しない、必要な資料はその都度配布				
回数	授業項目、内容		学習方法・準備学習・備考		
1・2	特殊メイク概論Ⅰ		特殊メイクデザイン		
3・4	特殊メイク基礎Ⅰ		特殊メイク概論、傷制作実習		
5・6	特殊メイク基礎Ⅱ		傷パーツ制作、型取り		
7・8	特殊メイク基礎Ⅲ		陰影の考え方、血管等の特殊メイク制作		
9・10	フェイスペイント実習Ⅰ		フェイスペインティングⅠ		
11・12	フェイスペイント実習Ⅱ		フェイスペインティングⅡ		
13・14	フェイスペイント実習Ⅲ		フェイスペインティングⅢ		
15・16	フェイスペイント実習Ⅳ		シリコンを使用したフェイスペインティングⅠ		
17・18	フェイスペイント実習Ⅴ		シリコンを使用したフェイスペインティングⅡ		
19・20	フェイスペイント実習Ⅵ		シリコンを使用したフェイスペインティングⅢ		
21・22	ビューティーメイク実習Ⅰ		撮影用ビューティーメイクⅠ		
23・24	ビューティーメイク実習Ⅱ		撮影用ビューティーメイクⅡ		
25・26	ビューティーメイク実習Ⅲ		撮影用ビューティーメイクⅢ		
27・28	特殊メイク実習Ⅰ		ゾンビメイク実習Ⅰ		
29・30	特殊メイク実習Ⅱ		ゾンビメイク実習Ⅱ		
31・32	講評		オリジナルメイク発表		
評価方法・成績評価基準			履修上の注意		
実技試験35%、短編映像制作35%、出席率30%			積極的に実習に取り組み、全ての実習項目に出席し、かつ全てのメイクを完成させること。		
成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)・D評価を不可とする。					
実務経験教員の経歴	Hollywoodで特殊メイクを学び、ミュージックビデオや映画の特殊メイクを担当				

対象学科		俳優・ミュージカル科		科目名		演技理論					
担当教員		矢頭 勲			実務授業の有無		○				
対象コース		全コース		対象学年		1		開講時期		前期・後期	
必修・選択		必修		単位数		一		単位時間数		16時間	
授業概要、目的、 授業の進め方		1. 演劇等実技の中で、気を付けて学ぶべきポイントを考えてみる 2. 芸能分野を生理的に考え、人間の反応について学ぶ 3. 集団や複数の人格による会話を多面的に捉える									
学習目標 (到達目標)		一つのセリフを状況や時間、性格や生活環境・価値観、年寄・子供など多面的に表現できること									
テキスト・教材・参 考図書・その他資料		資料は、必要に応じてコピーにて配布									
回数	授業項目、内容					学習方法・準備学習・備考					
1	芸用生理学	情景に立つ 1				芝居の世界を想像し、自分をその世界に立たせてみる意識					
2	芸用生理学	情景に立つ 2				無い物が見えてくる、見えない空間を感じる中で、会話する。					
3	芸用生理学	行動のサイクル 1				意識（発想）→想像（思考）→行動（エネルギー）→反応（影響）→誰かの意識					
4	芸用生理学	行動のサイクル 2				台本理解にも繋がっていく、役の生理について考える。					
5	芸用生理学	外郭的反応・内面的衝動 1				型から学ぶ⇄内面から捉える					
6	芸用生理学	外郭的反応・内面的衝動 2				感情の流れを抑圧的に導く例を探る。 心に響く例をだし、感情を探る。					
7	芸用生理学	発見と想像 1 記憶からの発想				創造力を記憶から生み出すと考えたとき、記憶の多くは、自身の感動の積み重ねとして捉えてみる。					
8	芸用生理学	発見と想像 2 選択する過程				発想力を生み出す感動。いくつもの記憶から、発見をきっかけに紡がれるアイデア。無数の記憶から選ぶ作業について					
9	芸用生理学	まとめ				行動のサイクルを再認識					
10	台本理解	行間を読む 1				台詞と台詞の相互理解を意識する。					
11	台本理解	行間を読む 2				見えない情景を感じ取り、台詞の繋がりを考える。					
12	台本理解	キャラクターを考える 1				役の関係性を理解する					
13	台本理解	キャラクターを考える 2				役について、その役の歴史を自分の経験と置き換えてみる					
14	台本理解	作者のねらいを考える 1				本を書く側の想いについて					
15	台本理解	作者のねらいを考える 2				本を読む側に起こるであろう反応・影響を考える					
16	台本理解	作者のねらいを考える 3				台本の中の登場人物たちの台詞は、作者の言葉でもある					
評価方法・成績評価基準						履修上の注意					
定期試験40%、レポート25%、実技試験25%、学習意欲10%						演技を思考する。客観視しながら状況や過程を鑑みての感情と、物語の登場人物となって内面から湧き上がる感情。そのどちらも、より効果的な手法として捉え、丁寧に行ってほしい。感覚的だけでなく、時には、抑圧的に起こった反応なのか、性格による衝動なのか、またその両方が混ざり合っている場合も考え、演技表現の幅を持つことへと繋げてほしい。					
成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以上)・D評価を不可とする。											
実務経験教員の経歴		舞台演劇活動歴30年以上、 舞台演出・舞台監督・演技指導歴15年									

対象学科	俳優・ミュージカル科	科目名	ブランディング&SNSマーケティング		
担当教員	神田 幸司		実務授業の有無	×	
対象コース	舞台俳優コース 映画・ドラマ俳優コース ミュージカルコース タレントコース	対象学年	1・2	開講時期	前期・後期
必修・選択	必修	単位数	－	単位時間数	16時間
授業概要、目的、 授業の進め方	1. SNSを使ったセルフプロモーションの向上 2. ブランド戦略について 3. SNSを使ったマネタイズ出来る人材育成				
学習目標 (到達目標)	自身のブランド力を高め、SNSでより多くの顧客を獲得し、自身でマネタイズを展開する。				
テキスト・教材・参 考図書・その他資料	iPad・スマートフォンを使用 プリント配布				
回数	授業項目、内容		学習方法・準備学習・備考		
1	ブランド展開とは		選ばれる戦略		
2	市場リサーチとマーケティング		消費者の中の顧客		
3	宣伝とは		5 W1H・AIDMAの法則など		
4	フォロワー数を増やすメリット・デメリット		知名度に伴う誹謗中傷について		
5	Twitter・Instagram①		人気のあるSNSとは		
6	Twitter・Instagram②		フォロワー数をどう増やすか		
7	Twitter・Instagram③		どんな投稿をするべきか		
8	Twitter・Instagram実践		自身でアーティスト名などを設定しSNSを行い、日々、フォロワーを増やす展開を行う。 授業では、どんな投稿が良かったか？反応はどうだったのかをディスカッションしながら、様々な意見やアイデアを出しながら個々がフォロワーを増やすことで、次のマネタイズ展開を行う準備をする。		
9	Twitter・Instagram実践				
10	Twitter・Instagram実践				
11	Twitter・Instagram実践				
12	Twitter・Instagram実践				
13	Twitter・Instagram実践				
14	Twitter・Instagram実践				
15	Twitter・Instagram実践				
16	Twitter・Instagram実践				
評価方法・成績評価基準			履修上の注意		
定期試験40%、レポート25%、実技試験25%、学習意欲10% 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以上)・D評価を不可とする。			自身のスマートフォンを使用します		
実務経験教員の経歴					

対象学科		俳優・ミュージカル科		科目名		卒業進級制作					
担当教員		矢頭 勲			実務授業の有無		○				
対象コース		全コース		対象学年		1		開講時期		後期	
必修・選択		必修		単位数		－		単位時間数		260時間	
授業概要、目的、 授業の進め方		1．1年間の集大成になるライブを実施 2．制作プロセスの経験と発表 3．各自、これまで学んだことを基本に企画から本番までを実施									
学習目標 (到達目標)		全期授業の集大成としての演劇公演									
テキスト・教材・参考図書・その他資料		舞台制作に関する必要物（台本その他）の配布									
回数	授業項目、内容					学習方法・準備学習・備考					
1～13	企画立案					どんな舞台を作る（演劇・ミュージカル・その他）					
14～27	企画書作成					テーマ・コンセプト・ターゲット決め					
28～40	企画書作成					内容					
41～53	企画書作成					予算・スケジュール・組織図・その他					
54～66	台本作成					資料収集					
67～79	台本作成					基本的構成決定～ラフ台本完成					
80～92	台本作成					台本完成					
93～105	稽古期間					衣装・大道具・小道具作成					
106～118	稽古期間					衣装・大道具・小道具作成					
119～131	稽古期間					衣装・大道具・小道具作成					
132～144	稽古期間					音響・照明プランニング					
145～157	稽古期間					音響・照明プランニング					
158～170	稽古期間					音響・照明プランニング					
171～183	稽古期間					音響・照明プランニング					
184～196	稽古期間					最終チェック					
197～209	リハーサル					会場入り（通し）					
210～222	リハーサル					会場入り（通し）					
223～236	リハーサル					会場入り（通し）					
237～249	ゲネラルプローブ										
250～260	本番					評価					
評価方法・成績評価基準							履修上の注意				
評価50%、制作過程での進捗状況20%、学習意欲30% 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以上)・D評価を不可とする。							進級評価の対象となります。				
実務経験教員の経歴		舞台演劇活動歴30年以上、 舞台演出・舞台監督・演技指導歴15年									

対象学科		俳優・ミュージカル科		科目名	卒業進級制作						
担当教員		矢頭 勲			実務授業の有無		○				
対象コース		全コース		対象学年		2		開講時期	後期		
必修・選択		必修		単位数		一		単位時間数		260時間	
授業概要、目的、 授業の進め方		1. 1年間の集大成になるライブを実施 2. 制作プロセスの経験と発表 3. 各自、これまで学んだことを基本に企画から本番までを実施									
学習目標 (到達目標)		全期授業の集大成としての演劇公演									
テキスト・教材・参考図書・その他資料		舞台制作に関する必要物（台本その他）の配布									
回数	授業項目、内容					学習方法・準備学習・備考					
1~13	企画立案					どんな舞台を作る（演劇・ミュージカル・その他）					
14~27	企画書作成					テーマ・コンセプト・ターゲット決め					
28~40	企画書作成					内容					
41~53	企画書作成					予算・スケジュール・組織図・その他					
54~66	台本作成					資料収集					
67~79	台本作成					基本的構成決定～ラフ台本完成					
80~92	台本作成					台本完成					
93~105	稽古期間					衣装・大道具・小道具作成					
106~118	稽古期間					衣装・大道具・小道具作成					
119~131	稽古期間					衣装・大道具・小道具作成					
132~144	稽古期間					音響・照明プランニング					
145~157	稽古期間					音響・照明プランニング					
158~170	稽古期間					音響・照明プランニング					
171~183	稽古期間					音響・照明プランニング					
184~196	稽古期間					最終チェック					
197~209	リハーサル					会場入り（通し）					
210~222	リハーサル					会場入り（通し）					
223~236	リハーサル					会場入り（通し）					
237~249	ゲネラルプローブ										
250~260	本番					評価					
評価方法・成績評価基準						履修上の注意					
評価50%、制作過程での進捗状況20%、学習意欲30% 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以上)・D評価を不可とする。						卒業評価の対象となります。					
実務経験教員の経歴		舞台演劇活動歴30年以上、 舞台演出・舞台監督・演技指導歴15年									

対象学科		俳優・ミュージカル科		科目名		演劇ビジネス			
担当教員		矢頭 勲			実務授業の有無		○		
対象コース		舞台俳優コース ミュージカルコース		対象学年		1		開講時期	前期・後期
必修・選択		必修		単位数		一		単位時間数	16時間
授業概要、目的、 授業の進め方		1. 演劇界の基礎知識の習得 2. アーツ・マネジメントの考察 3. 演劇の経済的側面とその未来を考察							
学習目標 (到達目標)		日本の劇団・劇場の仕組みを理解し、未来のアーツ・マネジメントを考察できる							
テキスト・教材・参 考図書・その他資料		特になし。							
回数	授業項目、内容				学習方法・準備学習・備考				
1	演劇を仕事にできるのか？				演劇ビジネスのイントロダクション				
2	映像資料研究 1				劇団四季のビジネスシステムと劇団経営				
3	映像資料研究 2				NHK大河ドラマ制作現場の実情				
4	映像資料研究 3				日本の商業演劇の成功例				
5	芸術助成の根拠と文化政策の理念				日本の文化政策と芸術助成制度について				
6	劇場法の成立				劇場法にみる劇場の定義と劇場支援策				
7	演劇の未来と文化政策 1				芸術団体を発展させる政策				
8	演劇の未来と文化政策 2				広がる演劇の仕事				
9	演劇ビジネス実習 1				新たなビジネスモデルの考案				
10	演劇ビジネス実習 2				ディスカッション 問題指摘				
11	演劇ビジネス実習 3				ディスカッション モデルのブラッシュアップ				
12	演劇ビジネス実習 4				プレゼンテーション				
13	演劇の力をビジネスに応用する				演劇ビジネスの可能性の考察				
14	日本のアーツ・マネジメント				芸術と社会を繋ぐ役割を担うアーツ・マネジメント				
15	グループワーク 1				グループで新たなビジネスモデルの考案				
16	グループワーク 2 発表				プレゼンテーション				
評価方法・成績評価基準					履修上の注意				
定期試験40%、レポート25%、実技試験25%、学習意欲10%					出席は大前提。積極性、参加意欲を重視します。				
成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以上)・D評価を不可とする。					これからの演劇に関わっていく人たちに、演劇とその未来を考える広い視野を習得してほしい。この変化の時代にあって、アーティストこそ、芸術と社会の関係性について自分の言葉で語れるようになってほしい。				
実務経験教員の経歴		舞台演劇活動歴30年以上、 舞台演出・舞台監督・演技指導歴15年							

対象学科		俳優・ミュージカル科	科目名	タレントビジネス	
担当教員		矢頭 勲		実務授業の有無	○
対象コース		映画・ドラマ俳優コース タレントコース 2.5次元演劇コース	対象学年	1	開講時期 前期・後期
必修・選択		必修	単位数	一	単位時間数 16時間
授業概要、目的、 授業の進め方		1. 演劇界の基礎知識の習得 2. アーツ・マネジメントの考察 3. 演劇の経済的側面とその未来を考察			
学習目標 (到達目標)		日本の劇団・劇場の仕組みを理解し、未来のアーツ・マネジメントを考察できる			
テキスト・教材・参 考図書・その他資料		特になし。			
回数	授業項目、内容			学習方法・準備学習・備考	
1	演劇を仕事にできるのか？			演劇ビジネスのイントロダクション	
2	映像資料研究 1			劇団四季のビジネスシステムと劇団経営	
3	映像資料研究 2			NHK大河ドラマ制作現場の実情	
4	映像資料研究 3			日本の商業演劇の成功例	
5	芸術助成の根拠と文化政策の理念			日本の文化政策と芸術助成制度について	
6	劇場法の成立			劇場法にみる劇場の定義と劇場支援策	
7	演劇の未来と文化政策 1			芸術団体を発展させる政策	
8	演劇の未来と文化政策 2			広がる演劇の仕事	
9	演劇ビジネス実習 1			新たなビジネスモデルの考案	
10	演劇ビジネス実習 2			ディスカッション 問題指摘	
11	演劇ビジネス実習 3			ディスカッション モデルのブラッシュアップ	
12	演劇ビジネス実習 4			プレゼンテーション	
13	演劇の力をビジネスに応用する			演劇ビジネスの可能性の考察	
14	日本のアーツ・マネジメント			芸術と社会を繋ぐ役割を担うアーツ・マネジメント	
15	グループワーク 1			グループで新たなビジネスモデルの考案	
16	グループワーク 2 発表			プレゼンテーション	
評価方法・成績評価基準				履修上の注意	
定期試験40%、レポート25%、実技試験25%、学習意欲10% 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以上)・D評価を不可とする。				出席は大前提。積極性、参加意欲を重視します。 これからの演劇に関わっていく人たちに、演劇とその未来を考える広い視野を習得してほしい。この変化の時代にあって、アーティストこそ、芸術と社会の関係性について自分の言葉で語れるようになってほしい。	
実務経験教員の経歴		舞台演劇活動歴30年以上、 舞台演出・舞台監督・演技指導歴15年			

対象学科		俳優・ミュージカル科		科目名		アフレコ			
担当教員		平辻 朝子			実務授業の有無		○		
対象コース		舞台俳優コース 映画・ドラマ俳優コース ミュージカルコース タレントコース		対象学年		1		開講時期	前期・後期
必修・選択		必修		単位数		－		単位時間数	48時間
授業概要、目的、 授業の進め方		1. プロ声優による実技指導。 2. アフレコ、ドラマCDの演技方などを学ぶ。 3. 声優としての意識を修得する。							
学習目標 (到達目標)		1. 声優としての基礎を身につける。 2. キャラクターや状況に合わせた演技ができる。 3. マイクワークを身につける。							
テキスト・教材・参 考図書・その他資料		講師作成資料							
回数	授業項目、内容					学習方法・準備学習・備考			
1・2・3	アニメアフレコC					キャラクターの動きや表情を確認して演じる。			
4・5・6	アニメアフレコC					マイクワークを加えての練習。			
7・8・9	アニメアフレコC					マイクワークを加えての練習。			
10・11・12	アニメアフレコC					最終練習。（テスト）			
13・14・15	アフレコの現場 プロダクションについて					講義。今後の各自の進路研究につなげる。			
16・17・18	ボイスドラマA					キャラクターの心情、繊細な表現を意識。練習。			
19・20・21	ボイスドラマA					マイクワークを加えての練習。			
22・23・24	ボイスドラマA					リハーサル。			
25・26・27	ボイスドラマA					最終練習。（テスト）			
28・29・30	外画吹替え実習					映像と台本のチェック。			
31・32・33	外画吹替え実習					吹替え練習			
34・35・36	外画吹替え実習					吹替え練習			
37・38・39	外画吹替え実習					最終練習。（テスト）			
40・41・42	ボイスドラマB					キャラクターの心情、繊細な表現を意識。練習。			
43・44・45	ボイスドラマB					マイクワークを加えての練習。			
46・47・48	ボイスドラマB					最終練習。（テスト）			
評価方法・成績評価基準						履修上の注意			
試験(発表)40%、基礎力30%、学習意欲30%						声優としての実力を磨く。			
成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以上)・D評価を不可とする。						授業で学べることはやり方であって、積み重ねが必要。日々、自主的に意識し練習することによって成長につながる。			
実務経験教員の経歴		プロダクション所属の現役俳優・声優							

対象学科		俳優・ミュージカル科	科目名	演劇実習		
担当教員		矢頭 勲		実務授業の有無	○	
対象学科		全コース	対象学年	2	開講時期	前期・後期
必修・選択		必修	単位数		単位時間数	16時間
授業概要、目的、 授業の進め方		1. バレエの基礎を学ぶことにより、表現者としての美しい立ち方、動きを磨く。 2. ミュージカルにも対応できる人材を育成する。				
学習目標 (到達目標)		1. 基本姿勢を身につける。 2. 体を自由に動かし演技ができる。 3. 音楽に合わせて踊ることができる。				
テキスト・教材・参 考図書・その他資料		バレエシューズ				
回数	授業項目、内容			学習方法・準備学習・備考		
1	演劇を仕事にできるのか？			演劇ビジネスのイントロダクション		
2	映像資料研究 1			劇団四季のビジネスシステムと劇団経営		
3	映像資料研究 2			NHK大河ドラマ制作現場の実情		
4	映像資料研究 3			日本の商業演劇の成功例		
5	芸術助成の根拠と文化政策の理念			日本の文化政策と芸術助成制度について		
6	劇場法の成立			劇場法にみる劇場の定義と劇場支援策		
7	演劇の未来と文化政策 1			芸術団体を発展させる政策		
8	演劇の未来と文化政策 2			広がる演劇の仕事		
9	演劇ビジネス実習 1			新たなビジネスモデルの考案		
10	演劇ビジネス実習 2			ディスカッション 問題指摘		
11	演劇ビジネス実習 3			ディスカッション モデルのブラッシュアップ		
12	演劇ビジネス実習 4			プレゼンテーション		
13	演劇の力をビジネスに応用する			演劇ビジネスの可能性の考察		
14	日本のアーツ・マネジメント			芸術と社会を繋ぐ役割を担うアーツ・マネジメント		
15	グループワーク 1			グループで新たなビジネスモデルの考案		
16	グループワーク 2 発表			プレゼンテーション		
評価方法・成績評価基準				履修上の注意		
試験(発表)30%、基礎力30%、学習意欲20%、積極性20% 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以上)・D評価を不可とする。				バレエの基礎を、表現者としての姿勢や演じる際の身体の動きに活かすことを目的としている。積み重ねによって修得できるものなので、自主練習をし、日常生活でも身体の動きを意識してほしい。		
実務経験教員の経歴		バレエ教室代表、ミュージカル振付師として、30年以上の経験を持つ				

②

国際映像メディア専門学校 シラバス

対象学科		俳優・ミュージカル科	科目名	ビジネス著作権	
担当教員		神田 幸司		実務授業の有無	×
対象コース		全コース	対象学年	2	開講時期 前期・後期
必修・選択		必修	単位数	一	単位時間数 16時間
授業概要、目的、 授業の進め方		1. 著作権の基本的知識習得を行う。 2. 前期、教科書中心に授業を行い、後期は問題集で知識習得の確認を繰り返す。 3. 実際の判決例などを取り入れ、より著作権が身近なものである工夫を行う。			
学習目標 (到達目標)		1. 著作権の基本的知識が理解出来る。2. ビジネス著作権BASIC合格を目指す。			
テキスト・教材・参 考図書・その他資料		ビジネス著作権検定公式テキスト（ウイネット） ビジネス著作権検定初級問題集（サーティファイ）			
回数	授業項目、内容			学習方法・準備学習・備考	
1	著作権とは何か			イントロダクション・著作権の性質・著作権法の目的	
2	著作権で保護されるもの			著作物の定期・著作物該当性に関するその他の問題点 著作物の例示・特別な著作物 教科書P1～P19	
3	著作権は誰が持つ			著作者の定義・著作者の例外・著作者と著作権者 教科書P23～29	
4	著作権の内容 1			著作権の内容・著作者人格権・公表権・氏名表示権・同一性保持権・一身専属性 教科書P31～P41	
5	著作権の内容 2			財産権の内容・複製権・上演権及び演奏権、上映権・公衆送信権・貸与権、譲渡権、二次的著作権 教科書P43～P59	
6	著作権は誰が持ついつまで保護される			著作権の始期・著作権の保護期間・国際的保護 教科書P63～P69	
7	他人の著作物は勝手に使えない			著作権の譲渡・利用許諾・契約 教科書P73～P77	
8	勝手に使える場合がある			権利制限規定・私的使用・不随的著作物・教育・図書・非営利無償の上演・演奏・引用転載 教科書P83～P101	
9	著作物を伝達する者を保護する制度			著作隣接権（実演家）（レコード製作者）（放送事業者・有線放送事業者）・隣接権保護期間 教科書P117～P129	
10	勝手に使うとどうなるか			著作権の侵害・みなし侵害・著作権侵害罪・民事的対策 教科書P133～P145	
11	著作権に関する関連制度			知的財産権制度・情報モラルと著作権 教科書P149～P155	
12	産業財産権とは			特許権・実用新案権・意匠権・商標権 プリント配布	
13	ビジネスと法・著作物に関する基礎知識・著作者とは			問題集P8～P17 確認テストおよび解答・解説	
14	著作者の権利・著作隣接権・著作権を無断で利用できる例外			問題集P18～P32 確認テストおよび解答・解説	
15	著作権の変動・著作権の侵害と権利救済・著作権法とその周辺			問題集P33～P40 確認テストおよび解答・解説	
16	模擬試験（過去問題より重要部分を出題）			答え合わせおよび解説	
評価方法・成績評価基準				履修上の注意	
検定合格40%、模擬試験30%、確認テスト合計点20%、学習意欲10%				出席日数および授業態度次第では検定受験不可とする。検定合格を目指すことはもちろんですが、芸能ビジネスでは重要な知識となるので、しっかりと理解に努めること。	
成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)・D評価を不可とする。					
実務経験教員の経歴		ビジネス著作権指導歴15年以上 MBAホルダー			

対象学科		俳優・ミュージカル科	科目名	実践行動学		
担当教員		若狭 利之		実務授業の有無	×	
対象コース		全コース	対象学年	1	開講時期	前期
必修・選択		必修	単位数	－	単位時間数	15時間
授業概要、目的、 授業の進め方		1. 前期1回、後期2回実施 2. 人間力（自主性・プラス思考・実行力など）の育成 3. Part 1～Part 3を毎回グループに分かれて実施				
学習目標 （到達目標）		将来に対する目標設定・プラス思考・働くことへのモチベーション向上				
テキスト・教材・参 考図書・その他資料		実践行動学テキスト配布 実践行動学研究所				
回数	授業項目、内容			学習方法・準備学習・備考		
1	Part 1 マジックドア 1			夢と目標 P 1～P 7		
2	Part 1 マジックドア 2			誤った思い込みと言い訳 P 8～P 1 3		
3	Part 1 マジックドア 3			行動のよりどころと心構え P 1 4～P 2 2		
4	Part 1 マジックドア 4			まず第 1 歩を P 2 3～P 3 2		
5	Part 1 マジックドア 5			目標設定しよう P 3 3～P38		
6	Step Up Sheet			目標設定達成の振り返り P 3 9～P 4 2		
7	Part 2 マジックドア 1			プラス思考が自分の能力・可能性を大きく広げる P 1～P4		
8	Part 2 マジックドア 2			考え方を換えれば行動が変わる P 5～P 1 1		
9	Part 2 マジックドア 3			あなたの問題は、あなたが解決できる P 1 2～P 1 9		
10	Part 2 マジックドア 4			あなたのコミュニケーションスタイルを見直そう P 2 0～P 2 7		
11	Part 2 マジックドア 5			目標が才能・可能性を開花させる P 2 8～P 3 2		
12	Step Up Sheet			目標設定達成の振り返り P 3 4～P 3 6		
13	Part 3 マジックドア 1			入学から今日までの成長を実感しよう P 1～P 4		
14	Part 3 マジックドア 2			働く自分をイメージしてみよう P 5～P 1 0		
15	Part 3 マジックドア 3			自分が最大限に生きる働き方とは P 1 1～P 1 5		
16	Part 3 マジックドア 4			将来を描いてみよう P 1 6～P 2 0		
17	Part 3 マジックドア 5			夢実現への第一歩を踏み出そう P 2 1～P24		
18	Step Up Sheet			夢実現整理・行動計画の振り返り P 2 5～P 2 8		
評価方法・成績評価基準				履修上の注意		
積極的取り組み40%、発表内容30%、リーダーシップ30%、 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以上)・D評価を不可とする。				講師はあくまでも授業の進行役（ファシリテーター）でしかありません。ファシリテーターの指示に従い、グループで授業を進めて下さい。		
実務経験教員の経歴		実践行動学ファシリテーター資格有				

②

国際映像メディア専門学校 シラバス

対象学科		俳優・ミュージカル科		科目名	i-MEDIAゼミ			
担当教員		矢頭 勲			実務授業の有無	○		
対象コース		全コース		対象学年	1	開講時期		前期・後期
必修・選択		必修		単位数	一	単位時間数		32時間
授業概要、目的、 授業の進め方		1. 毎回、特別講師をお招きして特別授業を実施する。 2. 講演会のみに留まらず、実習・演習形式もありえる。 3. 全ての在校生および教職員と一緒に受講する。						
学習目標 (到達目標)		著名なゲスト先生によりスペシャルなトークになります。貴重な経験が出来、人生において大切なことが学べます。						
テキスト・教材・参考図書・その他資料		講師の事前資料あり						
回数	授業項目、内容				学習方法・準備学習・備考			
1・2	スペシャルゲスト講師①				予定講師 声優・アーティスト・映画監督・プロデューサー・お笑い芸人・イベントプロデューサー・歌手・教育関係者・ユーチューバーなど			
3・4	スペシャルゲスト講師②							
5・6	スペシャルゲスト講師③							
7・8	スペシャルゲスト講師④							
9・10	スペシャルゲスト講師⑤							
11・12	スペシャルゲスト講師⑥							
13・14	スペシャルゲスト講師⑦							
15・16	スペシャルゲスト講師⑧							
17・18	スペシャルゲスト講師⑨							
19・20	スペシャルゲスト講師⑩							
21・22	スペシャルゲスト講師⑪							
23・24	スペシャルゲスト講師⑫							
25・26	スペシャルゲスト講師⑬							
27・28	スペシャルゲスト講師⑭							
29・30	スペシャルゲスト講師⑮							
31・32	スペシャルゲスト講師⑯							
評価方法・成績評価基準					履修上の注意			
授業態度と出席簿で評価する。 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)・D評価を不可とする。					事前に講師のプロフィールや資料を配布します。必ず事前に勉強して受講下さい。			
実務経験教員の経歴		業界関係者を招聘したオムニバス形式						

②

国際映像メディア専門学校 シラバス

対象学科		俳優・ミュージカル科		科目名		i-MEDIAゼミ					
担当教員		矢頭 勲			実務授業の有無		○				
対象コース		全コース		対象学年		2		開講時期		前期・後期	
必修・選択		必修		単位数		一		単位時間数		32時間	
授業概要、目的、 授業の進め方		1. 毎回、特別講師をお招きして特別授業を実施する。 2. 講演会のみに留まらず、実習・演習形式もありえる。 3. 全ての在校生および教職員と一緒に受講する。									
学習目標 (到達目標)		著名なゲスト先生によりスペシャルなトークになります。貴重な経験が出来、人生において大切なことが学べます。									
テキスト・教材・参考図書・その他資料		講師の事前資料あり									
回数		授業項目、内容					学習方法・準備学習・備考				
1・2		スペシャルゲスト講師①					予定講師				
3・4		スペシャルゲスト講師②					声優・アーティスト・映画監督・プロデューサー・お笑い				
5・6		スペシャルゲスト講師③					芸人・イベントプロデューサー・歌手・教育関係者・ユー				
7・8		スペシャルゲスト講師④					チューバーなど				
9・10		スペシャルゲスト講師⑤									
11・12		スペシャルゲスト講師⑥									
13・14		スペシャルゲスト講師⑦									
15・16		スペシャルゲスト講師⑧									
17・18		スペシャルゲスト講師⑨									
19・20		スペシャルゲスト講師⑩									
21・22		スペシャルゲスト講師⑪									
23・24		スペシャルゲスト講師⑫									
25・26		スペシャルゲスト講師⑬									
27・28		スペシャルゲスト講師⑭									
29・30		スペシャルゲスト講師⑮									
31・32		スペシャルゲスト講師⑯									
評価方法・成績評価基準							履修上の注意				
授業態度と出席簿で評価する。 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)・D評価を不可とする。							事前に講師のプロフィールや資料を配布します。必ず事前に勉強して受講下さい。				
実務経験教員の経歴		業界関係者を招聘したオムニバス形式									

対象学科		俳優・ミュージカル科	科目名	専攻実習		
担当教員		矢頭 勲		実務授業の有無	○	
対象コース		全コース	対象学年	1	開講時期	前期
必修・選択		必修	単位数	—	時間数	182時間
授業概要、目的、 授業の進め方		1. 制作プロセスの経験と発表 2. 各自、これまで学んだことを基本に企画から本番までを実施				
学習目標 (到達目標)		全期授業の集大成としての朗読・演劇・アフレコその他の制作および公演				
テキスト・教材・ 参考図書・その他 資料		舞台制作に関する必要物（台本その他）の配布				
回数	授業項目、内容			学習方法・準備学習・備考		
1～6	企画立案			どんな舞台を作る（演劇・ミュージカル・その他）		
6～15	企画書作成			テーマ・コンセプト・ターゲット決め		
16～25	企画書作成			内容		
26～35	企画書作成			予算・スケジュール・組織図・その他		
36～45	台本作成			資料収集		
46～55	台本作成			基本的構成決定～ラフ台本完成		
56～65	台本作成			台本完成		
66～75	稽古期間			衣装・大道具・小道具作成		
76～85	稽古期間			衣装・大道具・小道具作成		
86～95	稽古期間			衣装・大道具・小道具作成		
96～105	稽古期間			音響・照明プランニング		
106～115	稽古期間			音響・照明プランニング		
116～125	稽古期間			音響・照明プランニング		
126～135	稽古期間			音響・照明プランニング		
136～145	稽古期間			最終チェック		
146～152	リハーサル			会場入り（通し）		
153～159	リハーサル			会場入り（通し）		
160～166	リハーサル			会場入り（通し）		
167～174	ゲネラルプローベ					
175～182	本番			評価		
評価方法・成績評価基準				履修上の注意		
評価50%、制作過程での進捗状況20%、学習意欲30% 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以上)・D評価を不可とする。				それぞれの就学の成果としての制作。		
実務経験教員の経歴		舞台演劇活動歴30年以上、 舞台演出・舞台監督・演技指導歴15年				

対象学科		俳優・ミュージカル科	科目名	専攻実習		
担当教員		矢頭 勲		実務授業の有無	○	
対象コース		全コース	対象学年	2	開講時期	前期
必修・選択		必修	単位数	—	時間数	182時間
授業概要、目的、 授業の進め方		1. 制作プロセスの経験と発表 2. 各自、これまで学んだことを基本に企画から本番までを実施				
学習目標 (到達目標)		前期授業の集大成としての朗読・演劇・アフレコその他の制作および公演				
テキスト・教材・ 参考図書・その他 資料		舞台制作に関する必要物（台本その他）の配布				
回数	授業項目、内容			学習方法・準備学習・備考		
1～6	企画立案			どんな舞台を作る（演劇・ミュージカル・その他）		
6～15	企画書作成			テーマ・コンセプト・ターゲット決め		
16～25	企画書作成			内容		
26～35	企画書作成			予算・スケジュール・組織図・その他		
36～45	台本作成			資料収集		
46～55	台本作成			基本的構成決定～ラフ台本完成		
56～65	台本作成			台本完成		
66～75	稽古期間			衣装・大道具・小道具作成		
76～85	稽古期間			衣装・大道具・小道具作成		
86～95	稽古期間			衣装・大道具・小道具作成		
96～105	稽古期間			音響・照明プランニング		
106～115	稽古期間			音響・照明プランニング		
116～125	稽古期間			音響・照明プランニング		
126～135	稽古期間			音響・照明プランニング		
136～145	稽古期間			最終チェック		
146～152	リハーサル			会場入り（通し）		
153～159	リハーサル			会場入り（通し）		
160～166	リハーサル			会場入り（通し）		
167～174	ゲネラルプローベ					
175～182	本番			評価		
評価方法・成績評価基準				履修上の注意		
評価50%、制作過程での進捗状況20%、学習意欲30% 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以上)・D評価を不可とする。				それぞれの就学の成果としての制作。		
実務経験教員の経歴		舞台演劇活動歴30年以上、 舞台演出・舞台監督・演技指導歴15年				

科目名	映像				
担当教員	広川　一義		実務授業の有無	○	
対象学科	全学科	対象学年	全学年	開講時期	前期・後期
必修・選択	選択	単位数	－	単位時間数	16時間
授業概要、目的、 授業の進め方	1．映像機材の名前、種類、扱い方を学ぶ 2．撮影・編集の基本的知識 3．スマホで撮影・編集・作品制作				
学習目標 (到達目標)	スマホで簡単に動画制作が出来ること				
テキスト・教材・参 考図書・その他資料	教科書は使用しない、必要な資料はその都度配布				
回数	授業項目、内容		学習方法・準備学習・備考		
1	カメラ・編集機材の説明				
2	カメラ・編集機材の説明		使用方法		
3	撮影		撮影の基本的知識		
4	撮影		カメラワークについて		
5	撮影		サイズと照明効果		
6	撮影		10カット撮影してみよう		
7	編集		ソフトの選び方		
8	編集		カット編集の基本的知識（静止画）		
9	編集		カット編集の基本的知識（動画）		
10	編集		撮影した動画を自分で繋いでみる		
11	MA		映像に音楽・効果音・ナレーションを入れる		
12	MA		映像に音楽・効果音・ナレーションを入れる		
13	作品制作				
14	作品制作				
15	1分間動画　作品発表　評論		スクリーンにて作品投影		
16	1分間動画　作品発表　評論		スクリーンにて作品投影		
評価方法・成績評価基準			履修上の注意		
実技試験70%、出席率30% 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)・D評価を不可とする。			最終的には自身のスマホを使って自由に動画制作が出来ること		
実務経験教員の経歴	新潟の映像制作プロダクションにて10年勤務				

科目名		照明				
担当教員		新潟照明技研株式会社 五味澤 和宏		実務授業の有無	○	
対象学科		全学科	対象学年	全学年	開講時期	前期・後期
必修・選択		選択	単位数	－	単位時間数	16
授業概要、目的、 授業の進め方		1. ステージ照明の機材・装置の使い方を理解する 2. ステージ照明のプランニングが出来る。 3. 電気・作業手順など安全面を理解する。				
学習目標 (到達目標)		安全に、作業を行うとともに、必要な機材の選定、使用方法を理解し、簡単な演出照明とプランニングを習得する。				
テキスト・教材・参考 図書・その他資料		教科書は使用しない、必要な資料はその都度配布				
回数	授業項目、内容			学習方法・準備学習・備考		
1	照明基礎1 機材について			舞台照明の役割。機材の出し方、しまい方		
2	照明基礎2 照明卓操作と色の変化			機材の名称、使い方と安全な作業について		
3	照明基礎3 機材について復習と灯体の種類			各自で出し方、しまい方。 照明の各種灯体の説明。灯体の移設と撤去。		
4	照明基礎4 図面の見かたと電気の基礎知識			図面の読み方。回路など電気の知識。 灯体の吊り込み方について。		
5	照明基礎5 照明の図面を使ったイメージ作り			吊り込み実習。灯体に配色。ポリカラーの解説。		
6	照明基礎6 電気基礎 原理基本編			オームの法則、左手の法則など。 一般照明とLEDの設置方法など、照明器具の設営。		
7	照明基礎7 電気基礎 応用編			灯具総数電気容量、使用電気の確認方法等 照明のフォーカス（当たり合わせ）		
8	照明基礎8 照明仕込み図の作り方			図面の作り方、イメージの具現化 図面の仕込みを実際にやってみる		
9	照明基礎9 前期復習（テスト）			前回までの復習と知識面のテスト 人・場面の動きに合わせた操作、スポットフォロー		
10	照明基礎10 基礎授業前期のおさらい			休暇明け、基礎知識・技術の呼び戻し		
11	照明基礎11 演目とイメージ			演目を仮設定し、図面おこし。仮設定された演目の図面から実際に設置し、相違点を発見・修正		
12	照明基礎12 音楽モノの照明プラン			音楽モノの照明について 音楽照明プランと曲に合わせての照明操作		
13	照明基礎13 芝居などの効果演出			演劇用効果の出し方、照明演出について 芝居演目に対応した照明操作		
14	照明基礎14 演出に必要な照明部材と素材			演出照明に必要な機材等の説明 演出用の特殊な装置、灯具などの取り扱い、操作方法		
15	照明基礎15 プランニングまとめ			照明プランに関する復習 操作棒の使い方。高所灯具のフォーカシング		
16	照明基礎16 基礎のまとめ			照明の基礎知識と器具の管理・操作について総ざらい		
評価方法・成績評価基準				履修上の注意		
定期試験40%、レポート25%、実技試験25%、学習意欲10% 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)・D評価を不可とする。				実践を想定して行っています。実習中すべての指示が最適で結果に繋がっていくとは限りません。学ぶ上で、可能な限りのアクシデント及び本番時間による環境の変化を想定して、最適な対応を出来るよう心掛けてください。		
実務経験教員の経歴		新潟照明技研株式会社に所属する現役の照明家				

科目名	音響				
担当教員	株式会社サウンドエイト長谷川 辰也		実務授業の有無	○	
対象学科	全学科	対象学年	全学年	開講時期	前期・後期
必修・選択	必修	単位数	－	単位時間数	16時間
授業概要、目的、 授業の進め方	1. 音響機材の使用方法、名前を覚える 2. 各種ケーブルの取り扱い、取り回しを学ぶ 3. 録音機材を使用し、収録した音声を整音する				
学習目標 (到達目標)	音の性質を理解し、扱えるようになる。				
テキスト・教材・参考 図書・その他資料	教科書は使用しない、必要な資料はその都度配布				
回数	授業項目、内容		学習方法・準備学習・備考		
1	音響基礎実習Ⅰ		映像制作における音の役割、録音のやり方を学ぶ		
2	音響基礎実習Ⅱ		音との性質、録音技法、マイクの仕組み方法、ケーブルの種類、扱い方法を学ぶ		
3	音響基礎実習Ⅲ		録音機材の準備方法、撤収方法		
4	音響基礎実習Ⅳ		ブームの使用方法、レコーディング、ミキシング方法を学ぶ		
5	音響基礎実習Ⅴ		スタジオ録音実習		
6	音響基礎実習Ⅵ		アフレコ録音実習		
7	音響基礎実習Ⅶ		アフレコ録音実習		
8	音響基礎実習Ⅷ		効果音実習（作成および、録音、適切な選択方法）		
9	音響基礎実習Ⅸ		効果音実習（作成および、録音、適切な選択方法）		
10	音響基礎実習Ⅹ		整音実習（アフレコ素材の整音）		
11	音響基礎実習Ⅺ		整音実習（アフレコ素材の整音）		
12	音響基礎実習Ⅻ		整音実習（アフレコ素材の整音）		
13	音響仕上げ実習Ⅰ		ミックスダウンを行ってみる。		
14	音響仕上げ実習Ⅱ		ミックスダウンを行ってみる。		
15	音響効果研究Ⅰ		アカデミー録音賞の作品を鑑賞し、音がどのような役割を果たしているかを学習する		
16	音響効果研究Ⅱ		アカデミー録音賞の作品を鑑賞し、音がどのような役割を果たしているかを学習する		
評価方法・成績評価基準			履修上の注意		
実技試験70%、出席率30%			積極的に実習に取り組み、全ての実習項目に出席し、かつ音響効果を用いた短編映像作品を完成させること。		
成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)・D評価を不可とする。					
実務経験教員の経歴	新潟市を中心にイベント、舞台等の照明・音響を手がける。				

②

国際映像メディア専門学校 シラバス

科目名		制作				
担当教員		大崎 信行		実務授業の有無	○	
対象学科		全学科	対象学年	全学年	開講時期	前期・後期
必修・選択		必修	単位数	－	単位時間数	16時間
授業概要、目的、 授業の進め方		1. イベントが作られる仕組みを学ぶ 2. イベント運営を学ぶ 3. 自主企画イベントを行ってみる				
学習目標 (到達目標)		学生自身のイベント企画、実施				
テキスト・教材・参 考図書・その他資料		教科書は使用しない、必要な資料はその都度配布				
回数	授業項目、内容			学習方法・準備学習・備考		
1	イベント企画導入Ⅰ			イベントを組む上での必要な考え方		
2	イベント企画導入Ⅱ			イベントに必要な人材や役割を理解する		
3	イベント企画Ⅰ			公演時に必要な役割と準備		
4	イベント企画Ⅱ			企画書作成に関する基礎知識		
5	イベント企画Ⅲ			演目や内容の提案。内容に関する取り組み方と実現性について		
6	イベント企画Ⅳ			いくつか取り上げたアイデアをもとに、実現性を考えてみる		
7	イベント企画Ⅴ			様々な意見やジャンルからアイデアを集める		
8	イベント企画Ⅵ			アイデアを纏め、短時間設定での企画を立ててみる。		
9	イベント企画Ⅶ			仮想イベントを設定して、企画書の作成を行ってみよう（提出）		
10	イベント企画Ⅷ			イベント論 1 公演目的と意義		
11	イベント企画Ⅸ			イベント論 2 地域交流（イベント）		
12	イベント企画Ⅹ			イベント論 3 多種多様なイベント形態		
13	イベント企画Ⅺ			出演者やスタッフの動きを考える		
14	イベント企画Ⅻ			出演者のタイムスケジュールについて		
15	イベント企画ⅩⅢ			スタッフ進行表について		
16	総括			実演目的の企画を立ててみる。（演目時間自由）		
評価方法・成績評価基準				履修上の注意		
実技試験70%、出席率30%				16回すべての授業に出席し、イベントの企画を行う事		
成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)・D評価を不可とする。						
実務経験教員の経歴		放送・音楽業界の現場に7年				

科目名	演出				
担当教員	矢頭 勲		実務授業の有無	○	
対象学科	全学科	対象学年	全学年	開講時期	前期・後期
必修・選択	必修	単位数	－	単位時間数	16時間
授業概要、目的、 授業の進め方	1. 映像表現に必要な演出手法を習得する。 2. 学生制作作品をチェックしながら具体的改善的を指導する。				
学習目標 (到達目標)	自ら演出を考え、役者に芝居に応じた演出を付けられる				
テキスト・教材・参 考図書・その他資料					
回数	授業項目、内容		学習方法・準備学習・備考		
1	演出基礎Ⅰ		筋書と台詞について		
2	演出基礎Ⅱ		立ち位置、見栄え、動き		
3	演出基礎Ⅲ		効果的な音響・照明効果		
4	演出論Ⅰ		著名な演出家		
5	演出論Ⅱ		歴史的・社会的・世界観表現		
6	演出論Ⅲ		創作演出、メソッド効果など		
7	映像・演出とは何か		画面の映り方による画面効果の違い		
8	映像・演出とは何か		視線の的確な誘導を考える！		
9	特殊撮影について		特撮の演出方法を研究する①		
10	特殊撮影について		特撮の演出方法を研究する②		
11	アクションについて		なめらかに見せる演出方法		
12	アクションについて		フレームインアウトなど		
13	場面転換の効果について		時間経過、場面転換などの演出方法①		
14	場面転換の効果について		時間経過、場面転換などの演出方法②		
15	学生作品（5分）制作		各自、演出方法を参考に動画を制作してみる。		
16	学生作品（5分）の編集チェック		各自、作品を持参してプロジェクター投影しながら編集の 良し悪しの指導を行う。		
評価方法・成績評価基準			履修上の注意		
作品改善の評価70%、学習意欲30% 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)・ D評価を不可とする。			編集チェックの作品は自身の作品であること。 また、作品の提出は何本でも可能である。		
実務経験教員の経歴	演劇業界にて実績あり。当校専任講師				

科目名	発声				
担当教員		鈴木 則子		実務授業の有無	○
対象学科		全学科	対象学年	全学年	開講時期 前期・後期
必修・選択		選択	単位数	－	単位時間数 16時間
授業概要、目的、 授業の進め方		1. 正しい呼吸法・発声法を身につける。 2. マイク通りの良い発声・滑舌を身につける。			
学習目標 (到達目標)		1. 声優・俳優としての発声を身につける。2. 声優・俳優として必要な滑舌を身につける。			
テキスト・教材・参 考図書・その他資料		講師作成テキスト			
回数	授業項目、内容			学習方法・準備学習・備考	
1	腹式呼吸 声帯ストレッチ			実習	
2	腹式呼吸 声帯ストレッチ			実習	
3	腹式呼吸 声帯ストレッチ			実習	
4	腹式呼吸 声帯ストレッチ			実習	
5	腹式呼吸 声帯ストレッチ			実習	
6	発声 滑舌課題文練習			実習。滑舌課題文を練習。復習箇所もチェック。	
7	発声 滑舌課題文練習			実習。滑舌課題文を練習。復習箇所もチェック。	
8	発声 滑舌課題文練習			実習。滑舌課題文を練習。復習箇所もチェック。	
9	発声 滑舌課題文練習			実習。滑舌課題文を練習。復習箇所もチェック。	
10	発声 滑舌課題文練習			実習。滑舌課題文を練習。復習箇所もチェック。	
11	テスト			滑舌課題確認テスト	
12	外郎売			暗唱	
13	外郎売			暗唱	
14	外郎売			暗唱	
15	外郎売			暗唱	
16	テスト			外郎売テスト	
評価方法・成績評価基準				履修上の注意	
試験(発表)30%、基礎力30%、学習意欲20%、積極性20% 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以上)・D評価を不可とする。				しっかりと声を前に出す意識を持たせる。	
実務経験教員の経歴		演技者・ナレーターとして10年以上経験を積む			

科目名	演技				
担当教員	矢頭 勲		実務授業の有無	○	
対象学科	全学科	対象学年	全学年	開講時期	前期・後期
必修・選択	選択	単位数	－	単位時間数	16時間
授業概要、目的、 授業の進め方	1. 演技者のための基本トレーニング法 2. 演技をするための発声・身体感覚の習得 3. 身体のケア・自己管理能力の習得				
学習目標 (到達目標)	自分の身体に興味を持ち、客観的に見つめながら開発できる。また、自身でケアを行いながら積極的に表現にかかわっていくことができる。				
テキスト・教材・参 考図書・その他資料	特になし。				
回数	授業項目、内容		学習方法・準備学習・備考		
1	身体トレーニング 1		イントロダクション・トレーニングの重要性		
2	身体トレーニング 2		ストレッチ・リズム運動		
3	身体トレーニング 3		ストレッチ・リズム運動・呼吸法		
4	身体トレーニング 4		ストレッチ・リズム運動・呼吸法・筋力トレーニング		
5	身体トレーニング 5		ストレッチ・リズム運動・呼吸法・筋力トレーニング・発 声・リセット		
6	身体トレーニング 6		ストレッチ・リズム運動・呼吸法・筋力トレーニング・発 声・リセット		
7	身体トレーニング 7		ストレッチ・リズム運動・呼吸法・筋力トレーニング・発 声・リセット		
8	身体トレーニング 8		ストレッチ・リズム運動・呼吸法・筋力トレーニング・発 声・リセット		
9	身体トレーニング 9		ストレッチ・リズム運動・呼吸法・筋力トレーニング・発 声・リセット		
10	演技トレーニング 1		ストレッチ・リズム運動・呼吸法・筋力トレーニング・発 声・演技を伴う発声トレーニング・リセット		
11	演技トレーニング 2		ストレッチ・リズム運動・呼吸法・筋力トレーニング・発 声・演技を伴う発声トレーニング・リセット		
12	演技トレーニング 3		ストレッチ・リズム運動・呼吸法・筋力トレーニング・発 声・演技を伴う発声トレーニング・リセット		
13	演技トレーニング 4		ストレッチ・リズム運動・呼吸法・筋力トレーニング・発 声・演技を伴う発声トレーニング・リセット		
14	演技トレーニング 5		ストレッチ・リズム運動・呼吸法・筋力トレーニング・発 声・演技を伴う発声トレーニング・リセット		
15	演技トレーニング 6		ストレッチ・リズム運動・呼吸法・筋力トレーニング・発 声・演技を伴う発声トレーニング・リセット		
16	テスト		テスト（身体チェック・自己管理能力・メンタルケア能 力）		
評価方法・成績評価基準			履修上の注意		
試験(発表)30%、基礎力30%、学習意欲20%、積極性20% 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以上)・ D評価を不可とする。			出席は大前提。積極性、参加意欲を重視します。 表現者としてやっていく上での体づくり、声づくりの素地を形成 するつもりで臨んでほしい。日常のコンディショニングと常時 最低限のパフォーマンスを発揮できる自己管理能力を維持する意 思を自覚すること。		
実務経験教員の経歴	舞台演劇活動10年以上。				

科目名	歌唱				
担当教員	西潟 明美		実務授業の有無	○	
対象学科	全学科	対象学年	全学年	開講時期	前期・後期
必修・選択	選択	単位数	－	単位時間数	16時間
授業概要、目的、 授業の進め方	1. テキストを元に声楽の基礎を身につける。 2. 正しい音程を身につける。 3. ミュージカル対応もできるよう、楽曲を用い指導する。				
学習目標 (到達目標)	1. 声楽の基礎を身につける。 2. 正しい音程を身につける。 3. 音域を広げる。				
テキスト・教材・参 考図書・その他資料	音楽之友社 コールユーブンゲン全曲 全音楽譜出版社 コンコーネ50番中声用				
回数	授業項目、内容		学習方法・準備学習・備考		
1	声楽のためのストレッチと呼吸 テキスト解説		歌うための身体の準備の仕方、呼吸法を覚える。		
2	声楽のためのストレッチと呼吸 母音と子音の発音		歌うための声の出し方の基礎、口の開け方など修得。		
3	発声 コールユーブンゲン コンコーネ		コールユーブンゲンNo3 a/c、コンコーネNo.2 練習。		
4	発声 コールユーブンゲン コンコーネ		コールユーブンゲンNo3 a/c No4a/c、コンコーネNo.2 練習。		
5	発声 コールユーブンゲン コンコーネ 校歌		コールユーブンゲンNo4 No6、コンコーネNo.2 校歌練習。		
6	発声 コールユーブンゲン コンコーネ 校歌		コールユーブンゲンNo4 No8、コンコーネNo.3 校歌練習。		
7	発声 コールユーブンゲン コンコーネ 校歌		コールユーブンゲンNo6 No8 No10、コンコーネNo.3 校歌練習。		
8	発声 コールユーブンゲン コンコーネ 校歌		コールユーブンゲンNo10 No11、コンコーネNo.3 校歌練習。		
9	テスト		コールユーブンゲン、コンコーネからのテスト。		
10	1学期の復習 コールユーブンゲン コンコーネ		1学期の復習。 コールユーブンゲンNo13、コンコーネNo.4 練習。		
11	発声 コールユーブンゲン コンコーネ		コールユーブンゲンNo13、コンコーネNo.4 練習。		
12	発声 コールユーブンゲン コンコーネ		コールユーブンゲンNo15、コンコーネNo.4 練習。		
13	発声 コールユーブンゲン コンコーネ		コールユーブンゲンNo15、コンコーネNo.4 練習。		
14	発声 コールユーブンゲン コンコーネ		コールユーブンゲンNo15 No17、コンコーネNo.4通し 練習。		
15	発声 コールユーブンゲン コンコーネ ミュージカル楽曲		コールユーブンゲンNo17 No18、コンコーネNo.7 ミュージカル楽曲A練習。		
16	発声 コールユーブンゲン コンコーネ ミュージカル楽曲		コールユーブンゲンNo17 No18、コンコーネNo.7 ミュージカル楽曲A練習。		
評価方法・成績評価基準			履修上の注意		
試験(発表)30%、基礎力30%、学習意欲20%、積極性20% 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以上)・D評価を不可とする。			日常から発声を鍛え、音程を正す意識が必要。 声優・俳優もミュージカルに進出することも多くなってきた。 それを意識しつつ学んでいかせる。		
実務経験教員の経歴	声楽指導、ミュージカル歌唱指導者として、30年以上の経験を持つ				

科目名	演奏				
担当教員	富田 一輝		実務授業の有無	○	
対象学科	全学科	対象学年	全学年	開講時期	前期・後期
必修・選択	選択	単位数	－	単位時間数	16時間
授業概要、目的、 授業の進め方	1. 各希望楽器を用いたアンサンブル授業 2. 各パートごとの練習、完成後にバンド演奏 3. バンドステージとして発表				
学習目標 (到達目標)	初心者でも楽器が演奏できるようにある。経験者でもより高度なテクニックを身に付ける。 最終的にはバンド形態で1曲以上、演奏が出来るようになる。				
テキスト・教材・参 考図書・その他資料	楽譜などプリント対応				
回数	授業項目、内容		学習方法・準備学習・備考		
1	楽器の特性などを説明		ギター・ベース・ドラムス・キーボード		
2	パート分け		各楽器および経験の有無に分かれて練習を開始		
3	まず音を出してみる		経験者は初心者をサポートしながら楽器を演奏してみる		
4	課題曲① 演奏練習		各パートに分かれて課題曲練習		
5					
6					
7					
8	課題曲アンサンブルの練習		バンド形態で課題曲の練習		
9					
10	課題曲① 発表		ステージにて課題曲演奏の発表		
11	課題曲② 演奏練習		各パートに分かれて課題曲練習		
12					
13					
14	課題曲アンサンブルの練習		バンド形態で課題曲の練習		
15					
16	課題曲② 発表		ステージにて課題曲演奏の発表		
評価方法・成績評価基準			履修上の注意		
課題①発表30%、課題②発表30%、学習意欲20%、積極性20% 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以上)・D評価を不可とする。			楽器は各自、ご用意ください。		
実務経験教員の経歴		作曲家：2019年4月アニメキラッとプリチャンED 作編曲、同4月Kore:ct「スタートボタン」オリコンウィークリー総合5位 他多数			

科目名	声優				
担当教員	鈴木 則子		実務授業の有無	○	
対象学科	全学科	対象学年	全学年	開講時期	前期・後期
必修・選択	選択	単位数	－	単位時間数	16時間
授業概要、目的、 授業の進め方	1. 日々行える声優トレーニング法を指導。 2. 呼吸と発声についての基礎的知識を認識させ、正しい発声に役立てる。 3. イントネーション・プロミネンス・ポーズの基礎理解により、表現力を養う。				
学習目標 (到達目標)	1. 声優として持久力のある発声を身につける。 2. 苦手な行の滑舌の克服と強化。 3. 声量やブレス数を調整しつつ語ることができる 4. 長文も滑舌良く読むことができる。				
テキスト・教材・参考図書・その他資料	講師作成資料				
回数	授業項目、内容		学習方法・準備学習・備考		
1	トレーニング 発声・滑舌		実習 トレーニング 発声練習(長音、トレーニングを加えた発声)		
2	トレーニング 発声・滑舌		実習 トレーニング 発声練習(長音、トレーニングを加えた発声)		
3	トレーニング 発声・滑舌		実習 トレーニング 発声・滑舌練習(サ行・ザ行強化)		
4	トレーニング 発声・滑舌		実習 トレーニング 発声・滑舌練習(サ行・ザ行強化)		
5	トレーニング 発声・滑舌		実習 トレーニング 発声・滑舌練習(ダ行・ラ行強化)		
6	トレーニング 発声・滑舌		実習 トレーニング 発声・滑舌練習(ダ行・ラ行強化)		
7	トレーニング 発声・滑舌		実習 トレーニング 発声・滑舌練習(ナ行・マ行強化)		
8	トレーニング 発声・滑舌		実習 トレーニング 発声・滑舌練習(ナ行・マ行強化)		
9	実技テスト		実技テスト		
10	発声・滑舌		発声・滑舌練習(動きを加えての外郎売練習)		
11	発声・滑舌		発声・滑舌練習(動きを加えての外郎売練習)		
12	長文訓練		長文練習「暑い日に熱い鍋」		
13	長文訓練		長文練習「暑い日に熱い鍋」		
14	長文訓練		長文練習「真田のサラダの皿だ」		
15	長文訓練		長文練習「真田のサラダの皿だ」		
16	長文訓練		長文練習「固い方高い方」		
評価方法・成績評価基準			履修上の注意		
定期試験(発表)40%、基礎力30%、学習意欲30% 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以上)・D評価を不可とする。			声の仕事に対応できるだけの体力と、発声・滑舌を磨く。 ただし、授業で学べることはやり方であって、積み重ねが必要。 日々、自主的に意識し練習することによって成長につながる。		
実務経験教員の経歴	演技者・ナレーターとして10年以上経験を積む				